# アルゼンティン園芸総合試験場年報

# （CETEFFHO）

2号

平成8年度
(1996)

JICA LIBRARY
J 1136770 [3]

国際協力事業団アルゼンティン事務所

アルゼンティン園芸総合試験場

JR

1136770 [3]

# アルゼンティン園芸総合試験場年報

平 成 8 年 度

目　次

ページ

はじめに …… 1

第1章　アルゼンティン園芸総合試験場の概要 …… 2
第1節　アルゼンティン園芸総合試験場の業務及び組織の概要 …… 2
1．アルゼンティン園芸総合試験場の業務とその目的 …… 2
2．アルゼンティン園芸総合試験場の組織・定員 …… 3
第2節　平成8年度におけるアルゼンティン園芸総合試験場の主な動向 …… 4
1．業務の動向 …… 4
2．組織・定員の動向（職員及び専門家） …… 4
3．予算の動向（固有財産、機械等購入、特許等一覧） …… 4
4．主な視察者、見学者受け入れ …… 5
5．各種委員会 …… 5
第3節　広報、新聞記事 …… 5

第2章　試験研究業務 …… 6
第1節　中長期総合試験計画 …… 6
第2節　試験研究分担一覧 …… 6
第3節　試験研究報告（題目、報告者、年次、掲載雑誌名） …… 6
第4節　本年度試験研究実績要約 …… 7
第5節　次年度試験研究計画 …… 8

第3章　試験研究成果の発表 …… 13
第1節　機関誌 …… 13
1．機関誌「園芸総試だより」の発刊 …… 13
2．他機関で刊行された機関誌 …… 13
第2節　学会（誌）発表 …… 13
1．学会誌 …… 13
2．学会発表 …… 13

ページ

第４章　営農普及業務----------１３
第１節　日系人対象----------１３
１．農家経済調査の概要----------１３
２．後継者教育----------１３
３．講演会（巡回指導を含む）----------１４
４．農家研究組織の強化----------１４
５．伯国（先進地）在住農業専門家招聘----------１５
６．先進地農業研修----------１５
７．無病苗生産の技術移転----------１６
８．園芸生産物品評会----------１６
９．営農相談----------１７
10．その他----------１７
第２節　全アルゼンティン対象----------１７
１．営農普及研修会----------１７
第３節　調査・サービス業務----------１７
（土壌分析、水質検査、農業調査）
第４節　出版物・投稿----------１７

第５章　研究・技術協力----------１８
第１節　会議・研究会等----------１８
第２節　プロジェクト方式技術協力----------１８
第３節　研究・研修等----------１８
１．派遣（国内、国外留学、国際研究集会）----------１８
２．招聘（外国人研究員）----------１８
３．研修等・・・（第４章に該当しない活動部分を記載）----------１８
４．共同研究等----------１９
５．その他----------１９

第６章　特別資料----------１９
第１節　気象概要----------１９
第２節　平成８年度研究報告一覧----------２０
第３節　出版物一覧----------２０
第４節　場内見取り図（カステラール本場及びバラデーロ果樹園場）----------２０

添付資料リスト----------２１

以　上

はじめに

１９９６年度（平成８年度）は、当試験場の移転（移転先はＩＮＴＡカステラール；ア国農牧技術院複合研究所の敷地内。面積５Ｈａ無償貸与）による施設整備４ヵ年計画の第３年次に当たり、農機具収納庫、車両収納庫、堆肥舎、雨水貯水槽、ガラス温室及び簡易温室を建設した。よって、いよいよ来年度（平成９年度）が施設整備の最終年次となる。

このように、施設の整備が整い始めたことにより、平成９年１月には、移転後初めての研修事業（２週間）を開始出来るに至った。また、当試験場を会場にして、日系団体による「第１回日系農家園芸生産物品評会」も開催することが出来た。

試験研究業務では、「中長期研究計画」の下に、試験項目で、花卉１１課題、野菜６課題、果樹７課題を行えるようになり、ようやく「園芸総合試験場」として再出発出来るようになった。

普及業務では、主として日系園芸農家を対象に、「日系農業者団体連絡協議会（以下、日農協）」傘下の各地域に組織されている農業研究グループ（平成９年３月末現在、１４研究グループ、会員数約１５０名）に対する各種の講演会・技術指導などを行った。

技術協力・研究協力関係業務では、ＩＮＴＡの地方試験場、ＪＩＣＡ農業プロジェクト、国立大学農学部との技術交流・共同調査など、可能な範囲で積極的に行った。さらに、当試験場の有効活用とさらなる充実・強化、日系人を通しての技術協力及び相手国試験研究機関との連携・協力などの観点から、当試験場も参画する新規技術協力案件「植物遺伝資源計画」の要請書提出に協力した（平成９年３月現在、東京サイドでその採択可否について検討中）。

その他の業務として、上記研修事業の他に、平成７年度に引き続き、国立大学農学部からの強い要請に応え、同学生の花卉の卒業論文作成に当たり、当試験場で技術指導を行った。

さらに、当試験場としての初めての試みとして、日系農家の代表者による当試験場施設・機器を利用しての「花卉無病苗生産」に対し、基礎培養法などの技術援助も実施した（注：当試験場が独自に無病苗を生産し、配布する従前の方式を変更）。

## 第１章　アルゼンティン園芸総合試験場の概要

### 第１節　アルゼンティン園芸総合試験場の業務及び組織の概要

１．　アルゼンティン園芸総合試験場の業務とその目的

アルゼンティン園芸総合試験場（ＣＥＮＴＲＯ　ＴＥＣＮＯＬＯＧＩＣＯ　ＤＥ　ＦＬＯ－ＲＩ－ＦＲＵＴＩ－ＨＯＲＴＩＣＵＬＴＵＲＡ・・・ＣＥＴＥＦＦＨＯ）が、平成８年に実施した試験研究、普及、及び研修業務等は次の通りである。

（１）試験研究業務

①　花卉（以下、試験項目）

ア．シュッコンアスターの花芽分化期の解明
イ．種子系フリージャ播種期試験
ウ．モモイロカイウ、グロリオーサ、クルクマの栽培試験
エ．シンテッポウユリの品種比較試験
オ．ユーストマ（トルコギキョウ）の品種・作型試験
カ．デルフィニウムの品種・作型試験
キ．フリージャの切下げ球茎を用いた抑制栽培試験
ク．鉢物用・育苗用培養土の材料と配合比に関する試験
ケ．アルストロメリアの原種の維持試験
コ．花卉原種の採集と分類（ア国北部サルタ州での調査・採集）
サ．ハカランダ稚樹開花個体の選別

②　野菜

ア．キャベツの作型及び品種適応試験
イ．ブロッコリーの作型及び品種適応試験
ウ．カリフラワーの作型及び品種適応試験
エ．イチゴ「とよのか」の作型体系試験
オ．主要野菜（トマト、キュウリ、ナス等）の耐病性台木試験
カ．トマト、ピーマンの病虫害防除試験

③　果樹

ア．当初導入果樹８種（ｳﾒ、ﾓﾓ、ﾆﾎﾝﾅｼ、ﾌﾞﾄﾞｳ、ｳﾝｼｭｳﾐｶﾝ、ｶｷ、ﾘﾝｺﾞ、ﾋﾜ）の品種適応試験
イ．新規導入果樹及び品種（ｷｳｲ、ｸﾘ、ｵｳﾄｳ、ﾅｼ、ﾘﾝｺﾞ）の適応試験
ウ．当初導入果樹の矮性台栽培試験（ﾘﾝｺﾞ）
エ．密植栽培試験（りんご、ﾓﾓ、ﾅｼ、ﾌﾞﾄﾞｳ、ｳﾒ、ｶｷ、ﾐｶﾝ）
オ．改植果樹３種類の並木仕立て試験
カ．加温促成栽培試験（ﾌﾞﾄﾞｳ）
キ．屋根掛け栽培試験

④　平成８年度試験成績・平成９年度試験設計検討会の開催（12/13）、及び当試験場中長期試験計画の見直し（同中長期試験計画は別添１．）

（２）普及業務

①　無病苗（カーネーション、シュッコンカスミソウ）生産の技術指導。
②　日系・ア国園芸農家及び農業研究者等に対する農業技術講習会等の実施。
③　日系の農業用井戸水の水質調査（140点）結果の提供
④　試験成果・最新技術情報の提供

（３）研修業務

① 日系人・ア国人の研究者、後継者に対する集団研修。

② 日系農家後継者に対する個別研修。

③ ア国立大学農学部(ｸﾞｴﾉｽ･ｱｲﾚｽ大学) 学生の卒業論文作成に関する技術指導。

④ ア国立大学農学部(ﾓﾛﾝ大学) 学生の野外実習（「野菜苗生産」）にての技術指導。

（４）研究協力及び研究機関等との連携

ＩＮＴＡ（国立農牧技術院）の国内関連試験場、ＪＩＣＡ農業関連プロジェクトとの技術交流・意見交換、及びア国大学農学部との共同調査等の実施。

（５）その他

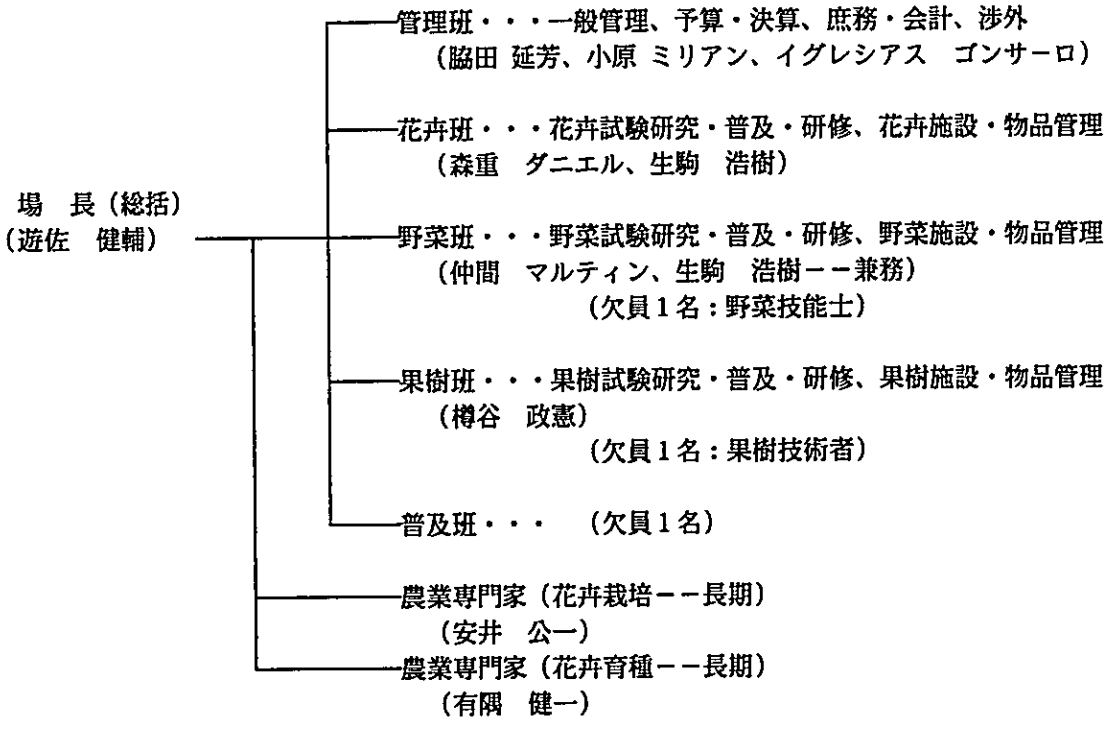
① 平成８年度農林水産業協力プロジェクト・リーダー会議用資料作成。

② 同リーダー会議個別協議用資料としての平成９年度当試験場予算実行計画書作成。

２． アルゼンティン園芸総合試験場の組織・定員（１９９７年３月３１日現在）

（１）最小必要人員１２名(派遣職員１名増含む)、実員８名（派遣職員１名、現地職員７名）。

（２）組織図




（注）管理班、花卉班、野菜班 ： カステラール本場（ウーリンガム市）
果樹班 ： 果樹圃場（バラデーロ市）

## 第２節　平成８年度におけるアルゼンティン園芸総合試験場の主な動向

### １．　業務の動向

（１）試験場施設整備

①同施設着工諸準備（入札説明会の開催6/13、入札会の開催第１回7/5 、第２回7/12、工事契約締結）。

②　施設整備４カ年計画の第３年次に当たる平成８年度は、農機具収納庫、車両収納庫、堆肥舎、雨水貯水槽、ガラス温室（旧グレウ本場設置のものを分解・輸送・組み立て）、簡易温室を建設した。

（２）旧グレウ本場の不動産の資産管理は警察官を雇用し、管理中。

（３）当試験場も参画するプロジェクト方式技術協力案件（詳細は後記）についての、ＩＮＴＡ及び日本国大使館担当官との協議。

（４）ＪＩＣＡ３農試（パラグァイ、ボリヴィア、アルゼンティン）連絡会議を当地で開催。

（５）平成８年度農林水産業協力プロジェクト・リーダー会議に場長出席（開催場所：パラグァイ国アスンシオン市）。

### ２．　組織・定員の動向（職員及び専門家）

（１）現地職員：ＩＧＬＥＣＩＡＳ Gonzalo　をバラデーロ果樹圃場(管理班)よりカステラール本場（管理班）へ配置換え（平成９年１月１日付）

（２）専門家　：伴野潔（果樹栽培－短期）着任11/14 、　離任 1/9。
西　新也（野菜栽培－短期）着任 2/6、　離任 3/3。
山田　寿（果樹栽培－短期）着任 2/6、　離任3/19。
有隅健一（花卉育種－長期）着任2/20。

### ３．　予算の動向（固有財産、機械等購入、特許等一覧）

（１）示達予算額　：　　７５，８４６千円

（内訳）

| | | | |
|---|---|---|---|
| （項）海外移住事業費 | | （項）技術協力専門家派遣事業費 | |
| （節）試験場運営費 | ５２，５０２ | （節）派遣諸費 | ６５９ |
| （節）施設等整備費 | １３，４９９ | （節）現地業務費 | １，０１９ |
| （節）営農普及費 | ５９４ | （項）ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ方式技術協力事業費 | |
| （節）自己収入見合支出 | ７１６ | （節）適正技術開発研究費 | ５，１６９ |
| | | （節）特定ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ技術支援費 | １，６８８ |

（２）有形固定資産の取得

①建物（農機具収納庫、車両収納庫、堆肥舎、雨水貯水槽、ガラス温室、簡易温室、発電小屋）

②構築物（試験場入口正門）

③機械装置（播種機、噴霧機）

④車両運搬具（ワゴン車－いすず）

⑤工具機具備品（コンピューター１台、複写機１台、エアーコンディショナー15台）

４．　主な視察者、見学者受け入れ

・松永亮一主任研究員（国際農林水産業研究センター：ＪＩＲＣＡＳ企画調整部）：
「南米における持続的農業に利用可能な穀類作物等の遺伝資源の探索と導入」に係る調査４／４～４／５。

・太田部長（ＪＩＣＡ農開部）、高橋職員（同農開部計画課）：「平成８年度南米３農試運営方針に基づく実施体制強化のための打ち合わせ」及び視察７／４。

・ＩＮＴＡカステラールＣＩＲＮ（天然資源研究センター）所長ほか一行６名：
試験場視察７／３１。

・日系農業研究グループ（アスター研究会）一行１０名：試験場見学及びキク移植機の実習
８／１５。

・ＩＮＴＡ研究者ほか一行１５名：試験場視察９／３。

・新家　龍教授（神戸大学）ほか一行（帰国研修員Ｆ／Ｕ調査団--ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ）３名：
試験場視察９／１２。

・Ｉｎｇ．Ａｇｒ．Ｍｅｒｃｅｄｅｓ ＭＡＳＣＯ（パタゴニア自生植物研究者－ＩＮＴＡ）：
試験場視察９／１９。

・国立ブエノス・アイレス大学教官２名：研修員受け入れ依頼および打ち合わせ８／１３。

・Ｐａｂｌｏ　ＮＵＮＥＺ（ネウケン応用生態センター課長）、小笠原エルネスト（同センター）：試験場視察１０／４。

・佐藤暁彦課長補佐（外務省経済協力政策課）、石原睦夫次長（国際協力推進協会総務部）：
試験場視察１０／１８。

・円藤　章会長（千葉県海外移住家族会）：試験場視察１１／４。

・石島　嶄リーダー（パラグァイ小農対策プロジェクト・リーダー）：
試験場視察１１／２８。

・加藤明治団長ほか２名（「南米大豆の高位生産・利用技術の総合的開発研究調査団」）：
試験場視察及びＪＩＲＣＡＳと当試験場との今後の連携の可能性等意見交換１／２８。

・田中和幸研究員（タキイ種苗株式会社）ほか２名：試験場視察１／３１。

・亀若理事（ＪＩＣＡ）、斎藤課長（農開部計画課）：試験場視察及び試験場運営方針等
打ち合わせ２／２４。

・鍋屋課長（農開部畜産園芸課）：試験場視察及び試験場運営並びに平成９年度事業計画
打ち合わせ２／２４。

・ＰＥＲＲＥＮＥＳ Ｇｕｉｌｌｅｒｍｏほか２名（ｺﾘｴﾝﾃｽ州野菜生産技術センター）：
試験場及び日系野菜農家視察並びに当試験場との野菜試験研究業務の連携の可能性調査
３／２０。

・工藤　博主任研究員（農水省畜産試験場－ＩＮＴＡ獣医学研究所短期派遣）：
試験場視察３／２６。

５．各種委員会

なし。

第３節　広報、新聞記事

１．試験場紹介

（１）研修生募集案内（当地日系紙「らぷらた報知」に掲載）：１２月１９日付（別添２）。
１２月２１日付（別添３）。

（２）テレビインタビュー：　当試験場仲間マルティン研究員（野菜試験担当）が、テレビ（ＣＶＮ）記者に対し、約１０分間、「日本野菜」の紹介を行い（９／６）、翌日の午前７時３０分より約１０分間同テレビ番組「ACCION EN CAMPO」で放映された。

２．その他

（１）「第１回日系園芸生産物品評会」関連記事の日系紙「らぷらた報知」での報道。
・・・４／１６付（別添４）、５／３０付（別添５）、６／８付（別添６）

（２）日本野菜の紹介記事（当地農業雑誌「ＳＵＰＥＲ　ＣＡＭＰＯ」６月号）・・・別添７．

（３）「第１回日系園芸生産物品評会」の報告が「日農協ニュース１０号(6/13 発行）」により行われた。　・・・別添８．

（４）「第１回日系園芸生産物品評会(5/21 ～5/24開催）」で審査委員長を勤めた当試験場安井公一専門家（花卉栽培）による講評内容(主として技術面)が、日農協（日系農業者団体連絡協議会）の機関紙「日農協ニュース１１号(7/11 発行）」に和文、西文にて掲載された。
・・・別添９．

（５）「第１回日系園芸生産物品評会」の様子が当地農業雑誌「ＳＵＰＥＲ　ＣＡＭＰＯ」７月号に掲載された。　・・・別添10.

（６）エスコバール「花祭り」（当試験場安井公一専門家が花卉部門の審査委員長）の紹介記事が日系紙「らぷらた報知」に掲載された。・・・別添11.

（７）「第２回日系園芸生産物品評会」関連記事の日系紙「らぷらた報知」での報道。
・・・９／２１付（別添12）、１０／１９付（別添13）、１１／２付（別添14）

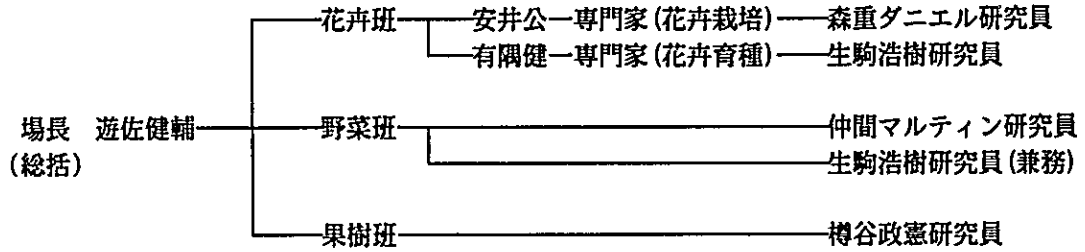
（８）中堅移住者本邦研修生の当試験場での研修報告会における「シクラメンの栽培」についての報告内容が日系紙「らぷらた報知」(1/14 付）により報道された。・・・別添15.

## 第２章　試験研究業務

### 第１節　中長期総合試験計画

当試験場の設立経緯から、今日までは、主として日系園芸農家（花卉、野菜、果樹）の営農の発展と安定を図ることを目的として、農家のニーズ、緊要度、予算的実施可否、試験成果の見直し、同分野の将来の見通しなどを参考にした「中長期研究計画」を適時見直しをし作成の上、各種の試験研究を行っているが、今後は日系人を通しての技術協力の観点にも立ち、さらには他の研究機関との連携を図りながら、ア国園芸の発展に寄与できる分野（特に花卉分野）の研究課題も取り入れて実施していくことにしている。現在計画している中・長期研究計画は別添１の通りである。

### 第２節　試験研究分担一覧




（注）　野菜・果樹部門では短期派遣専門家も研究を分担した。

### 第３節　試験研究報告（題目、報告者、年次、掲載雑誌名）

１．「1995年度（平成７年度）試験研究実績（花卉２課題、野菜１課題、果樹３課題）」：
安井公一ほか試験場研究員

２．「総合業務報告書」－果樹：伴野潔（短期派遣専門家）　平成９年１月・・・別添16.

３．「総合業務報告書」－野菜：西新也（短期派遣専門家）　平成９年３月・・・別添17.

４．「総合業務報告書」－果樹：山田寿（短期派遣専門家）　平成９年３月・・・別添18.

## 第４節　本年度試験研究実績要約

### １．花卉

（１）栽培技術改善

・　宿根アスターの花芽分化期の解明について、３月上旬から調査を始め、早い品種では４月上旬に分化が認められた。

・　宿根アスターの開花調節に関し、ミケルマス・デージー品種群はシロクジャク品種群に比べ、日長処理に対する反応が鈍く、開花調節の可能性が低いこと、また、電照によって開花が抑制出来たのは、「サンカルロス」のみで、他は量的日長反応を示すことが判明した。

・　種子系フリージャの播種期試験に関し、５月以降の播種は、低温経過時の葉数が不足し、開花しなかった。また、４月播種区の開花は１０月下旬にほぼ終わることが判った。一方、正常に開花したのは３月撒きまでであり、その切り花収穫は９月となり、10月以降の出荷は、すなわち、母の日（10月第３日曜日）の切り花出荷は、種子系では困難と思われる。

・　グロリオーサの栽培試験に関し、12月にわずかに開花したが、成球とするにはあと１年が必要であることが判った。

・　テッポウユリの品種比較試験では、「雷山１号」、「雷山２１号」、「ホワイトホーン」の３品種の開花特性が明らかとなった。

・　ユーストマの品種作型試験では、「キング・オブ・ブルーピコティー」など27品種の開花特性が明らかとなった。

（２）土壌環境の改善

・　鉢物用・育苗用培養土の材料と配合比に関する試験で、現地材料である標準培養土の物理性を解明した。

（３）栽培施設・資材の改善

・　農業用井戸水の水質検査に関し、移住地ごとに集めた井戸水140 点について、カチオン、ｐＨ、ＥＣを測定したところ、ナトリウムイオン濃度が全般的に高く、最高では230ppmを示す水もあり、ｐＨはほとんどが7.0 ～8.0 の範囲にあった。

（４）遺伝資源探索

・　チリ及びアルゼンティン北部で平成７年度に採集（２種10個体）したアルストロメリア原種の維持試験を行ったが、発芽率が極めて低かった。

・　花卉原種の採集と分類に関し、アルゼンティン北部のサルタ州で採集したアルストロメリア属２種、ヒペアストラム属２種、球根を持つベゴニア属、バーベナ属などの分布を調べ、一部は持ち帰り、栽培中である。

・　ハカランダ稚樹開花個体の選抜に関し、ブエノス・アイレス市内で19個体、チリ国で１個体、計20個体を見い出し、この内、５個体は有望と考えられるので、平成９年４月以降の秋に、種子・穂木を採集・検討の予定である。

### ２．野菜

（１）栽培技術改善

・　イチゴ「とよのか」の作型体系試験による冬季での早期出荷の可能性を検討したところ、暖房機による加温区（以下、加温区）は無加温区に比べ、15日間早く出荷出来ることが判った。

・　十字科野菜(ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ、ｷｬﾍﾞﾂ、ｶﾘﾌﾗﾜｰ)の作型及び品種適応試験に関し；

　ブロッコリーでは、加温すれば無加温より約２週間早く収穫出来た。露地では加温区より約３週間遅れたが、充実した花蕾を収穫出来た。ただし、５月に露地へ定植するには品種を選ぶ必要がある。

　キャベツでは、加温すれば、無加温より約２週間、露地より約２カ月（ただし、５月撒きでは、低温の影響で生育が遅れた。）早く出荷が出来、少なくとも農家にとって施設栽培（無加温でも可）は経営的に有利であることが判った。

カリフラワーでは、加温すれば無加温より約２週間、露地より約２カ月早く収穫出来、ブロッコリーと同様、施設栽培は経営上有利と思われる。

３．果樹

（１）品種適応試験

・ ナシでは、「新水」、「幸水」、「豊水」、「二十世紀」とも、果重、大きさに問題がなく、食味も良く、普及品種として期待できる。

・ ブドウでは、「ピオーネ」、「巨峰」とも果重、大きさに問題がなく、食味も良く、普及品種として期待できるが、「アーリー・スチューベン」は果実が小さく、狐臭があり、ジベレリン処理も効かないため、普及には不向きである。

・ リンゴでは、「スターキング・デリシャス」、「陸奥」、「王林」、「ふじ」とも若干小玉ではあるが、食味は良く、普及品種として期待できる。

・ カキでは、「次郎」、「前川次郎」、「富有」とも果重、大きさに問題がなく、食味も良く、普及品種として期待できる。

・ ミカンでは、「興津早生」、「宮本早生」、「久能温州」、「瀬戸温州」とも普及品種として期待できる。「杉山温州」は穢翼が硬く、収穫期も遅く、余り期待出来ない。

４．委託栽培試験

当試験場での果樹試験用苗木の育成を、苗木専門業者に育苗を委託（ブドウ132 本、ナシ、サクランボ、カキ、リンゴ、モモなど75本）し、優良苗木の確保に努めた。

## 第５節　次年度試験研究計画（花卉、野菜、果樹）

平成9年度（１９９７年度）試験研究計画

| 分野 | 小　課　題 | 目　　的 | 試　験　方　法 |
|---|---|---|---|
| 花卉 | １．カーネーションの新品種導入及び現地適応試験 | ヨーロッパから導入した品種の生産性や嗜好性を調査し、現地に適したものを選出する。 | 導入した苗を茎頂培養し無病化した後、慣行栽培して到花日数、品質を調査する。 |
| | ２．ユーストマの新品種導入及び現地適応試験 | 日本から導入した品種について、現地の嗜好性や各栽培型への適応性を見出す。 | 一代交配２６品種、固定１品種について、夏播き栽培を行い、この栽培型への適性を調査する。 |
| | ３．グロリオーサの球根養成試験 | 開花球(約50ｇ)に達するまでの所要期間及びウイルス病汚染程度を調べ、切花栽培の基礎資料を得る。 | 1995年に播種した約５０個体について、塊茎肥大状態を経時的に調査中である。 |
| | ４．ユーストマの冬出し（出荷）栽培に関する試験 | 冬から早春へかけての切花出荷を目標とした栽培型を確立する。 | 12月に播種したものについて、冷房育苗及び苗の低温処理を行う区を設け、開花を調べる。 |
| | ５．フリージャの抑制栽培に関する試験 | 需要の多い10月の「母の日」を中心とした切花の出荷を目標とする。 | ２℃で貯蔵した球茎を、定植の90日前から高温処理して休眠打破し、定植後自然の低温で花成誘導する。定植予定は７月と８月の２回。 |
| | ６．ユリの促成栽培に関する試験 | スカシユリとテッポウユリの、７月から９月にかけての切花出荷を目標とする。 | ２月に掘り上げたりん茎を冷蔵処理し、無加温室に定植して到花日数、品質を調査する。 |
| | ７．切り花類の無病苗培養試験 | 宿根アスター、宿根カスミソウ、ポインセチア、ポットマム等を茎頂培養する際の適正培地を見出す。 | ＭＳ、Ｈｙｐｏｎｅｘを基本培地として、生長調節物質の適正濃度を検索する。 |
| | ８．培養土の酸度矯正に関する試験 | 塩基性培養土のｐＨを下げ、適正な酸度とする実用的方策を見出す。 | 培養土に硫黄華を混入して、添加量とｐＨの変化及び希望するｐＨに達するまでの所要期間を調査する。 |
| | ９．培養土のｐＨと鉢花の生育に関する試験 | 各種鉢花の好適ｐＨを見出す。 | プリムラ類の苗を、ｐＨを異にした鉢土に植えて生育、生理障害を調査する。 |
| | 10．農業用井戸水の水質調査 | 水中に含まれる塩類の種類、濃度を調査して、生理的障害を回避するための基礎資料を得る。 | ブエノス・アイレス市近郊の花、野菜生産地から潅水に使用している井戸水を約100点採集し、ｐＨ及び陽イオン(Na、Ca、K、Mg)濃度を測定する。 |
| | 11．発根ホルモン剤の有効期限に関する試験 | 水溶液として調整した発根ホルモン剤の貯蔵可能な期間を調査し、農家へ頒布する際の参考とする。 | 所定期間貯蔵したＩＢＭ水溶液の発根促進効果をカーネーションの挿芽を材料として調査する。 |

平成9年度（１９９７年度）試験研究計画

| 分野 | 小　課　題 | 目　　的 | 試　験　方　法 |
|---|---|---|---|
| | 12. 南アメリカ原産の花卉類の収集・評価 | 南アメリカには有用花卉遺伝資源が多いのに、これまで、その原産国で活用が図られたことがなく、これら未利用で有用な花卉遺伝資源を収集し、その活用の道を探る。 | 各地を実地踏査し、収集に当たる。夫々の収集地については、ＧＰＳにより出来る限り正確な位置を測定してコンピューターに入力、データとして保存・蓄積する。一方、生(ｋ?)植物は試験場にて栽培・維持し、遺伝資源として活用の可能性を検討する。 |
| | 13. 稚樹・四季咲型ハカランダの育種 | ハカランダは南アメリカを代表する美しい花木の一つである。その増殖は専ら実生によっているが、開花までに多年の歳月を要するのが難点である。したがって、この期間の出来るだけ短い、しかも年数回開花可能な遺伝子型を見出そうとしているもので、併せて鉢物としての利用法の開発も考慮の中に入れる。 | 可能な限り若くして開花した個体を選んで種子を採種し、得られた１年生実生に限界低濃度（例えば実生の20~30%が開花する程度）の矮化剤の処理を加え、開花特性に関する篩い分けを行う。なお、同様な観点からの研究はパラボラッチョ等の大型花木でも計画・準備中である。 |
| | 14. Ｎａ耐性キクの育種 | ブエノスアイレス周辺の花卉生産は、潅水に用いる井戸水のＮａ濃度が異常に高いため、栽培に重大な支障を来している。しかしながら、育種の上からこのような事態に積極的に対処しようとした事例は今までなかったようである。したがって、Ｎａ耐性のキクの新系統開発をその狙いとする。 | Ｇｅｎｅ　Ｐｏｏｌ(遺伝子給源)を出来るだけ取った上で、発芽当初の実生幼苗に高濃度(限界濃度)のＮａ溶液処理を行い、Ｎａ耐性の遺伝子型の篩い分けが果たして可能かどうかを追求する。本試験は厖大な数の実生の篩い分けを、実験室内で出来るだけ省力的、かつ効率的に行うよう計画する。 |
| | 15. 不良環境耐性シクラメンの育種 | ブエノスアイレス周辺の花卉生産は、全般的に施設化・装置化が十分とはいえないため、植物自体に無理を強いた栽培が行われることが多い。それだけに、植物側に、遺伝的に高い不良環境耐性を持つ新品種の作出が望まれることになる。かって、丈夫なシクラメンの親から、丈夫な子が生まれ、継代的にその強化が可能であるとの感触を得ていたことから、その真偽を規模を大きくして追求する。 | 生産現場より出来るだけ劣悪な環境下で生き残ったシクラメンを集め、自殖または相互交雑によって採種し、得られた実生を劣悪な環境下(用土はピート等の有機素材を加えない原土、もしくはそれに近いものとし、高温、多湿(特に根圏の)下で栽培)で育成し、次世代以降にも同様な繰り返しを加える。 |
| | 16. 四季咲性アサレアの育種 | ブエノスアイレス周辺では、その気候によると思われるが、ベルジアン系のアサレアが周年にわたり開花可能なようで、これらが市場に出荷され需要を満たしているが、主要品種は数品種に限られている。この度日本よりピンチの時期だけで開花期の特定が可能なキンモウツツジ系の交配種を持参したので、ベルジアン・アサレア在来種との相互交雑を行い、変異の拡大を図る。なお、長期的な視点からは、ヒラドツツジ系の血の導入も検討する。 | 常法により交雑を行い、実生を育成する。ツツジ類は酸性土壌を好むが、上記14、15で取り上げたような手法でブエノス・アイレス周辺のアルカリに近い土壌に耐える遺伝子型の篩い分けも考慮する。また、ヒラドツツジ系はブエノス・アイレスの原土になじんで生育している。究極的には開花特性に関する育種にまで踏み込みたいが、差し当たってはキンモウ系との交雑で、庭園植栽用二季咲性の大型ツツジの育種を行いたい。 |

平成9年度（１９９７年度）試験研究計画

| 分野 | 小課題 | 目的 | 試験方法 |
|---|---|---|---|
| | 17. 矮化剤(ＧＲ)処理による鉢物花卉の開発 | 花卉の中には本来(遺伝的に)長大に生育するが、ＧＲ処理によって生育が抑制され、鉢物として利用が図れるものがある。このような花卉の探索を行い、鉢物としての新しい利用法を開発する。<br>(1) Trumpet pink vine(仮称)<br>大型の筒状のピンクの花を多数つけるツル性植物。花期が長いのも良い。<br><br>(2) ヤマブキもどき(仮称)<br>本来のヤマブキは晩春の一季咲であるが、この植物は晩秋にヤマブキ状の黄色の花を多数つける。また登熟中のさく果があることからすると、花期はかなり長期にわたることが窺われる。但し、個体によって開花性にバラツキがあるので、素質の良い個体を選別してＧＲ処理実験に供試する。 | 矮化剤の種類、処理時期、濃度、回数をかえて最適条件を明らかにする。 |
| | | (3) ブーゲンビレア<br>これはすでに鉢物として利用されており、ＧＲ処理による品質の向上が期待されるが、さらにこれを４ｘ化すると、<br>① 不捻性が解消されるので、交雑育種への組み込みによる変異の多様化が期待される。<br>② 倍化によって花(包葉)が大きくなる他、より矮化するので、鉢物としての完成度が高まる。 | ブーゲンビレアについては、ＧＲ処理の他にコルヒチン処理による倍化を行うが、品種によって長日下での開花に優劣があるので、優れた開花特性を持つものを選んで倍化処理に供する。 |
| | 18. 休眠不在型のシンテッポウユリの育成 | 幼形期の短く、休眠不在型で、かつ冬季の低温・短日下でも花芽分化・発達の可能なシンテッポウユリを育成することにより、植付期（播種期）の変更だけで開花期をずらしたり、あるいは同一個体で年に何回もの切花の収穫を可能にさせる。 | 1996年６月19日播種のシンテッポウユリ３品種（雷山１、２号及びホワイトホーン）の個体を栽培中のところ、①左記目的に出来るだけ適った個体の選抜、②これら選抜個体は全てりん片繁殖を行い、親株と比較しながらの仔球の生育状況調査、③りん片の一部は仔球形成を促してから冷蔵庫の中で長期貯蔵した後に植え出し、どの位の長期貯蔵が可能か、植付けた後すぐに生長を開始し、親株と同様な正常な開花が可能かの調査を行う。<br>また、生育特性の他に、花形や葉形などの観賞性を考慮しながら、選抜系統相互間に交雑を行い、さらに理想のユリに近付ける。 |
| 野菜 | １．育苗試験(ｷｭｳﾘ、ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ、ｶﾘﾌﾗﾜｰ、ｷｬﾍﾞﾂ) | セル成型苗システムを導入し、これら野菜に適した床土とサイズを決定することにより、優良野菜苗生産技術 | 当地において安価に導入出来るいろいろ材料により作った床土やサイズの異なったセルを供試する。 |

平成9年度（１９９７年度）試験研究計画

| 分野 | 小　課　題 | 目　　的 | 試　験　方　法 |
|---|---|---|---|
| 野 菜 | | を確立する。 | |
| | ２．太陽熱土壌消毒法の検討 | ア国では一般的に土壌消毒用として、メチル・ブロマイドやバサミッドなどを使用しているが、コストの低減を図ること及び環境汚染防止の観点から、太陽熱を利用した土壌消毒法を検討する。 | 透明なプラスティックを供試し、太陽熱による土壌消毒を行う。 |
| | ３．ﾚﾀｽ、ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ、ｶﾘﾌﾗﾜｰ、ｷｬﾍﾞﾂ、ｲﾁｺの作型・品種適応試験 | これら野菜の播種適期、及び地域適応性品種を検討する。 | 播種期拡大を図るため、４回にわたり播種し、露地と施設内に定植の上、播種適期と適応品種を確定する。 |
| | ４．ﾄﾏﾄ、ｷｭｳﾘ、ﾅｽ等の耐病性台木試験 | これら野菜の接ぎ木試験により、耐病性野菜を育成する。 | 耐病性台木を利用する。 |
| | ５．レタスの病虫害防除試験 | レタスの病害虫の実情を把握する。 | ＩＴシート（黄色の粘着版）やフェロモントラップを供試。 |
| | ６．シルバーを利用したアブラムシ忌避 | 化学農薬無使用の観点から、アブラムシ回避を検討する。 | シルバーを利用し、その効果の程度を検討する。 |
| 果 樹 | １．当初導入果樹８種類の品種適応試験 | 日本より導入したニホンナシの生育及び果実の品質を調査し、普及用品種を見出す。 | 品種として新高、菊水、筑水、清澄、晩三吉を供試し、生育及び品質を調査する。 |
| | | 日本より導入したミカンの生育及び果実の品質を調査し、普及用品種を見出す。 | 品種は晩白柚、清見、南香、大田ポンカン、デコポン、青島温州、日南１号、伊予柑、スルガ・エレガントを供試し、生育及び品質を調査する。 |
| | ２．新規導入果樹及び品種の適応試験 | 1990年に日本より導入しているリンゴの生育及び果実の品質を調査し、普及用品種を見出す。 | 品種は長フ６号、ガラ、さんさ、陽光、北斗、ミスズ系ツガル、嵐系ツガル、を供試し、生育及び品質を調査する。 |
| | | 1996年に日本より導入しているブドウの生育及び果実の品質を調査し、普及用品種を見出す。 | 品種は甲非路、安芸シードレス、藤稔、高尾、グレコールマン、アレキサンドリア、ハニー・ブラックを供試し、生育状況を調査する。 |
| | ３．摘花・摘果剤試験 | モモ、リンゴ、ナシ、ミカン栽培では、摘花・摘果に相当な時間が必要なことから、摘花・摘果剤を使用することにより、その省力化と果実の高品質化を図る。。 | 摘花・摘果剤として、石灰硫黄合剤をモモ、リンゴ、ナシの開花初期に20倍液を、フィガロン乳剤をミカンの満開20～50日後に1,000～2,000倍液、満開70～80日後に2,000～3,000倍液を、それぞれ10アール当たり250～500ℓ供試し、薬剤散布後、残存果数を調査する。 |

## 第３章　試験研究成果の発表

### 第１節　機関紙

１．機関紙「園芸総試だより」の発刊

１９９０年７月に初版、１９９１年１月に第４版を発行・配布（２ヵ月に１回）したが、試験場の移転問題、人員不足等により、その後休刊中。しかしながら、その発刊の必要性を痛感していることから、その発行・内容等について検討中。現在のところ、既述の「日農協」の傘下にある各地域の農業研究グループ主催の「定例研究会」において、普及に繋がる試験成果・最新技術情報を適時公開している。

２．他機関で刊行された機関紙

なし

### 第２節　学会（誌）発表

１．学会誌

なし

２．学会発表

なし

## 第４章　営農普及業務

### 第１節　日系人対策

１．農家経済調査の概要

移住者・日系人の援護業務を実施する上の指針作成のための基礎資料、及び移住地に関する情報を提供するための資料、との位置付けで、ローマ・ベルデ移住地（１０戸）とラ・プラタ移住地（１８戸）を対象に、アルゼンティン事務所と協力して調査を実施した。

なお、１９９６年９月に調査した結果（調査対象期間は１９９５年９月～１９９６年８月までの１ヵ年）の農家経済の概要（１戸当たり）は次の通り。（単位：千円）

・ローマ・ベルデ：農業粗収入２３，２６９、農業所得６，２５１、純資産６０，２６０
・ラ・プラタ：農業粗収入　７，６８２、農業所得２，６３６、純資産２８，４８８

２．後継者教育

（１）研修事業

・　当試験場移転後初めて、日系人１０名(外にア国人４名)を対象（応募者２０名であったが、研修受け入れ体制の都合上、１４名とした。）に、当試験場で２週間(1/13~1/24)、「花卉組織培養」についての研修事業を実施した。結果は極めて好評で、アンケート調査によると、継続実施とさらなる内容充実（範囲の拡充含む）に対する強い希望が出された(別添19の写真参照)

・　日系農家の後継者に対し、個別方式で２名、１週間に１回の割合で、「セント・ポーリァの組織培養」と「ランの培養法」について、当試験場の設備・機器を利用しての技術指導を行った。

（２）中堅移住者技術向上研修（本邦研修）

研修した３名（花卉栽培－１名、花卉・プラグ苗生産栽培管理－２名）について、アルゼンティン事務所に協力してのその人選とオリエンテーション、及び各地域の農業研究グループでの定例会においての帰国報告を行うなど、その活用に努めた。

３．講演会（巡回指導含む）

（１）農業専門家による日系農家に対する講演会

ア．伴野　潔専門家（果樹栽培ーー短期派遣）

・「日本の果樹の生産・消費・試験研究の動向」：バラデーロ果樹研究会（１１／２３）。参集１２名。

・「果樹栽培(ﾘﾝｺﾞ､ﾅｼ)について」：コマウエ、リオ・ネグロ地域（１２／３～１２／５）。参集１４名。

・「果樹栽培(ﾘﾝｺﾞ､ﾅｼ､ﾌﾞﾄﾞｳ)について」：アンデス移住地（１２／１０～１２／１２）参集１３名

・「果樹の栽培管理技術と植物生長調節剤の利用」：ウルキッサ、バラデーロ合同果樹。（１２／１７）参集１９名。

イ．山田　寿専門家（果樹栽培ーー短期派遣）

・「果樹の栽植・整枝法について」：ネウケン、リオネグロ地域(２／１７～２／１９)。参集１３名。

・「ミカンの葉もぐりバエの防除について」：ミシオネス、ガルアッペ（３／５～３／８）。参集１７名。

ウ．西　新也専門家（野菜栽培ーー短期派遣）

・「野菜栽培、主としてイチゴについて」：アンデス移住地（２／２５）。参集１７名。

４．農家研究組織の強化

各地域に組織されている農業研究グループ（既述の「日農協」の傘下ーー14研究グループ、会員数約150 名）に対する農業技術指導・適正技術情報提供を次の通り実施した。（　）内は参加人数。

（１）花卉

①　花卉研究グループ

・４／25フローレンシア・バレーラ花卉研究会「デルフィニウムの生態と栽培」（１３名）

・５／７カーネーション研究会(ﾗﾌﾞﾗﾀ)「カーネーションの無病苗生産」（１２名）

・５／16マルコス・パス研究会「矮化剤の種類とその効果」（７名）

・５／29北部鉢物(ｼｸﾗﾒﾝ) 研究会ーエスコバール地区:「鉢物用土の物理性と寿命」(１５名)

・６／６バラ研究会「バラのハウスでの暖房と保温」（１３名）

・10／15フローレンシア・バレーラ花卉研究会「世界の花生産」（１１名）

・11／21カーネーション研究会(ﾗﾌﾞﾗﾀ)「カーネーションの立ち枯れ性病害」（１３名）

・２／12北部鉢物(ｼｸﾗﾒﾝ) 研究会「葉序と副芽形成・系統と特性・液肥」（１３名）

・２／25エスコローサ研究会(ウルキッサ地区)「バラ、シクラメンの冬季管理と液肥の使い方」（１４名）

・３／５草花研究会「パンジー、プリムラなどの花壇苗の生産」（９名）

・３／20ブルサコ鉢物研究会「植物ホルモンの種類と働き、矮化剤の使い方」（１４名）

（２）野菜

①　野菜研究グループ（全日系野菜農家で組織されている。開催地は各野菜栽培地域）

・４／18定例会「有機栽培について」（１６名）

・５／16定例会「有機栽培についてーー講師：ＭＯＡ谷口農業技師」（１８名）

・６／20定例会「トマトの病害ーウイルスについて」（１５名）

・７／18定例会「野菜栽培法及びｐＨ・ＥＣ機器の使い方」（２９名）

・８／15定例会「移植機、土壌分析法について」（１１名）

・９／５定例会「野菜栽培について」（２５名）

・９／25定例会「野菜生産物品評会の出品物について」（１７名）

・10／17定例会「野菜生産物品評会の出品物について」（１３名）

・11／13定例会「野菜栽培についてーー講師：木本ボツカツ大学農学部教授」（２５名）

・12／５定例会「野菜病害防除について」（１９名）
・12／６定例会「野菜病害防除について－－講師：黒沢ボツカツ大学農学部教授」（１１名）
・１／23定例会「野菜栽培について」（１５名）
・３／20定例会「タマネギ栽培法について」（２２名）

（３）果樹
① 果樹研究グループ
・６／25ウルキッサ果樹研究会「催芽剤の適用(ブドウの休眠打破の処理)について」(１２名)。
・７／16ウルキッサ果樹研究会「冬季のブドウ管理について」（１１名）
・８／20ウルキッサ果樹研究会「果樹（ブドウ）栽培について」（２０名）
・９／24ウルキッサ果樹研究会「ブドウの二期作について」（１２名）
・11／21ウルキッサ果樹研究会「無核巨峰栽培上の問題点について」（１４名）
・11／23バラデーロ果樹研究会「日本の果樹の生産・消費・試験研究の動向について－－
－－講師：伴野　潔専門家」（１２名）
・12／17ウルキッサ・バラデーロ果樹合同研究会「果樹の栽培管理技術と植物生長調節剤の利用
について－－講師：伴野　潔専門家」（１９名）
・１／21ウルキッサ果樹研究会(ｴﾙ･ﾊﾞｯﾄ 地域)「チリの視察報告について」（１１名）
・２／７バラデーロ果樹研究会「ウメの晩霜害対策について」（８名）
・２／20ウルキッサ果樹研究会「ブドウの赤熟れ現象について」（１４名）
・３／11ウルキッサ果樹研究会「チリの視察報告、リンゴのみつ症状対策について」（１２名）
・３／16バラデーロ果樹研究会「チリの視察報告、リンゴのみつ症状対策について」（７名）

（４）農業研究グループ活動への助成
「カーネーション、アスターの良品質生産に関する研究」の活動費として「日農協」（日系農業者団体連絡協議会）に助成（１６０千円）。

（５）日農協（日系農業者団体連絡協議会）定例会議への出席
同会議にて、日農協と当試験場との、双方の当該月における関連業務について紹介した。
(延べ９回)

５．伯国在住農業専門家招聘
日系野菜農家を対象として、ブラジルの日系農業専門家を招き、次の通り巡回技術指導を行った。
（１）11/ ７～11/15、 木本敏明専門家（野菜栽培－－ブラジル：ボツカツ大学農学部教授）による「野菜栽培」について。
（２）11/18 ～11/26、 中川ジュリオ専門家（土壌肥料－－ブラジル：ボツカツ大学農学部教授）による「野菜と土壌」について。
（３）12/ ２～12/11、 黒沢忠吉専門家（病害－－ブラジル：ボツカツ大学農学部教授）による「野菜の病虫害防除法」について。

６．先進地農業研修（ブラジル国への研修）
「花卉栽培－鉢物」として１名(11/４～11/14)、「野菜栽培」として１名(９/23～10/４)、及び「果樹栽培」として１名(11/18～12/２)の中堅日系農家を、ブラジル国サンパウロ州の花卉・野菜栽培篤農家、及びサンタ・カタリーナ州の農牧研究公社果樹試験場で夫々研修させた。同研修生の人選について、アルゼンティン事務所及び推薦元の「日農協」に協力した。
また、同研修生を、既述の各地域の農業研究グループが開催した各定例会での研修報告など、その活用計画に参画した。

７．無病苗生産の技術移転

旧グレウ本場時代は、無病苗（主として花卉）を生産・配布していたが、この度の当試験場の移転を機に、農家の自主性と自覚を醸成するため、及び当試験場のの陣容不足という受け皿の問題等から、各農業研究グループの代表者に対し、当試験場の施設と機器などを開放し、当試験場の指導・助言の下に、農家自身が無病苗を生産・配布する方式を取り入れることにし、次の通り実施した。

（１）「カーネーション研究会」が、カーネーションの２０数品種について茎頂点培養苗の生産を行うに当たり、その代表者２名に対し、その生産及び土壌への植出しに関する技術指導を行った結果、１２月に第一期分として１０名の生産者にカーネーション無病苗２７品種1,111 本が配布された。

（２）このカーネーションに、希望の多いシュッコンカスミソウも加え、引き続き２名に対し、茎頂培養法を指導中であり、生産者への第二期分配布は、平成９年度第一四半期に予定されている。

８．園芸生産物品評会の開催（日農協主催）

日系園芸農家が日頃、市場に出荷している各生産物を持ち寄り、意見交換等を通してお互いの技術の研鑽を図る目的で、次の通り開催された。

（１）第一回園芸生産物品評会（開催期間：５／21～５／24）

当試験場を会場にして開催され、講評は、総括と花卉部門は審査委員長となった当試験場の安井専門家（花卉栽培）が、野菜と果樹部門では審査委員の仲間マルティン研究員（野菜試験・普及担当）が、夫々担当（他に審査委員に、ＩＮＴＡの農業技術者と大学農学部の教官等数名が参画）した。講評では主として栽培技術面と出荷までの管理上の問題点などが紹介された。

当日の出品点数は、切り花２６点、鉢花７４点、観葉２５点、野菜７６点及び果樹が９点であった。また、農家の士気高揚を図るため、日農協の要請により、日本国領事杯と当試験場の場長杯が授与（最優秀賞に領事杯、各部門の一等賞に場長杯）された。

同期間中、延べ２５０名が見学に訪れ（その内、ＩＮＴＡ技術者、大学農学部の教官・学生・普及員など、アルゼンティン国関係者が約６０％の１５０名が来訪）、特にア国関係者は、多種類かつ高品質の各生産物（花卉、野菜、果実）に対し、高い評価を示すとともに、参加した各日系農家も互いに良い刺激を得たものと思われる（写真は、当試験場第一四半期報告時に添付送付済）。

なお、上記講評内容は、日農協の機関紙「日農協ニュース11号」(7/11発行－別添９)に掲載され、技術普及が図られた。

（２）第二回園芸生産物品評会（開催期間：10／25～10／27）

ブエノス・アイレス市内の日会共済会サロンで開催（在ア日本人会後援）され、第一回と同様、講評は、総括と花卉部門は審査委員長となった当試験場の安井専門家（花卉栽培）が、野菜と果樹部門では審査委員の仲間マルティン研究員（野菜試験・普及担当）が、夫々担当（他に審査委員として、ＩＮＴＡの農業技術者と大学農学部の教官等数名が参画）した。講評では主として栽培技術面と出荷までの管理上の問題点などが紹介された。

当日の出品点数は、切り花のバラ６点、切り花カーネーション１５点、その他切り花１１点、花壇苗２２点、鉢花１７点、観葉９点、果・根菜１９点、葉菜３３点（果樹部門は晩春のため出品なし）であった。また、農家の士気高揚を図るため第１回と同様、日農協の要請により、日本国領事杯と当試験場の場長杯が授与（最優秀賞に領事杯、各部門の一等賞に場長杯）された。

同期間中、約３００名（即売会開始までの記帳者２０１名）が見学に来たと思われ、時期が適った花卉部門では、食虫植物のＮＥＰＥＮＴＥＳやラン類、さらに健康ブームを反映したアロマティカなどが新しく登場し、また、花卉・野菜の品質と管理も前回よりやや向上している、との審査委員の講評があった（別添20､写真集参照）。

なお、会場の関係で、今回即売会を行ったところ、約１時間で完売され、当該売上金は、日農協の運営資金として活用された。

９．営農相談

（１）来場

花卉４３件、野菜９件、果樹４件。

（２）電話

花卉２件。

（３）巡回指導

果樹５件。

10．その他

（１）エスコバール花祭り（開催期間：９/27～10/13、場所：エスコバール市）の花卉品評会に、同主催者からの要請により、当試験場安井公一専門家（花卉栽培）が審査委員長を勤めた。

（２）中堅移住者本邦研修生の黒田嘉章氏（研修科目：シクラメン栽培）による研修報告会が研究グループ主催により当試験場で開催された（１／９）。

第２節　全アルゼンティン対象

１．営農普及研修会

（１）日系・ア国農業技術者、大学農学部教官及び日系農学部学生等を対象に、安井公一専門家（花卉栽培）による講演会を当試験場で、次の通り計３回開催するとともに、技術的な意見交換も行った。

① テーマ：「カーネーションの生産動向と栽培技術」。参集者１４名。４月３日開催。

② テーマ：「花卉へのホルモン剤の使い方」。参集者５名。５月１５日開催。

③ テーマ：「花のポスト・ハーベストに関する諸問題」。参集者８名。８月２８日開催。

（２）ア国一般農家を対象に、トゥクマン州トゥクマン市で開催（11/12～11/14)されたＩＮＴＡ（国立農牧技術院）ファマイジャ試験場主催の「第２回花卉・観葉植物セミナー」において、同ＩＮＴＡの要請を受け、当試験場安井公一専門家(花卉栽培)が「ユーストマ及びキクの栽培」について講演（通訳は当試験場の生駒浩樹研究員：野菜担当。花卉兼務）を行った。聴衆者は約200名。別添21参照。

（３）ア国一般農家を対象に行われたＩＮＴＡカステラール研究所主催の「組織培養セミナー」（開催期間：９／２～９／４）に、ＩＮＴＡの要請により当試験場安井公一専門家（花卉栽培）が、同３日午後の「カーネーションの茎頂培養」の実習指導と、同４日午前の「ランの組織培養による増殖」の講義を行った（参加者各１５名）。

第３節　調査・サービス業務

第４四半期に、移住地ごとに集めた農業用井戸水(140点)について、ｐＨ、ＥＣ、カチオン(Ｎａ、Ｃａ、Ｋ、Ｍｇ）の濃度を測定した。測定結果は適時農家に紹介しているが、その結果の活用については、今後農家ごとに指導していく必要がある。

第４節　出版物・投稿

１．「日農協（日系農業者団体連絡協議会）ニュース11号」(1996年７月11日発行）に、「第１回園芸生産物品評会の審査を終えて」と題して、安井公一専門家（審査委員長）より、主として花卉についての技術的講評結果を掲載・紹介した。（別添９）

２．第４四半期に、適正技術開発研究の一環として、花卉と野菜の基礎栽培技術を紹介した小冊子「花卉の催芽法」と「野菜栽培一般」を作成し、次年度説明・配布の予定である。

## 第５章　研究・技術協力

### 第１節　会議・研究会等

１．当試験場と農業プロジェクト等との連携の可能性を検討するため、コリエンテス州の「野菜生産技術センター」の関係者との間で、次の通り技術交流と意見交換を行った。

（１）当試験場での同「野菜生産技術センター」の関係者一行４名との意見交換会（５月８日）。

（２）在伯農業専門家の中川ジュリオ教授（ブラジル国ポツカツ大学農学部）の来ア（既述）を機に、当試験場にてＩＮＴＡ等の技術者５名と「土壌・施設管理」についての技術的意見交換会を行った（11月25日）。

### 第２節　プロジェクト方式技術協力

１．既述の通り、ＪＩＣＡ直営試験場の有効活用とさらなる充実強化、日系人を通しての技術協力の実施、及びア国試験研究機関等との連携・協力、などの観点から、当試験場も参画した平成９年度のプロジェクト方式技術協力新規案件として、当初は「花卉遺伝資源計画」とし、その内容について、ＩＮＴＡ本部とＪＩＣＡ事務所との間で、前年度に引き続き５回目の協議（５／２７）と、ＩＮＴＡカステラールと当試験場との間での技術者レベルでの技術面の打ち合わせを２回（４／２４、５／１０）実施した。

しかしながら、この「花卉遺伝資源計画」の「花卉」のみでは、東京サイドにおいて採択されにくいこと、よって、「花卉」以外に、牧草、穀物、マメなども加え、その内容の範囲を広げた「植物遺伝資源計画」として再度ア国と協議するように、とのその後の東京サイドの指導を受け、再度ア国よりの要請書を提出するためのＩＮＴＡ本部とＪＩＣＡ事務所との再度協議を３回（１０／２、１０／２３、１１／７）、また在ア日本国大使館の担当官との協議を１回（１１／８）、さらには、ＩＮＴＡカステラールと当試験場との間での技術者レベルでの技術面の打ち合わせを１回（１１／１）行った。

1997年３月末現在、本「植物遺伝資源計画」の採択可否について、東京サイドで検討中である。

### 第３節　研究・研修等

１．派遣（国内・国外留学、国際研究学会）

（１）当試験場仲間マルティン研究員（野菜担当）を６月19日～同20日、国立ラ・プラタ大学での植物ウイルスのセミナー（ＩＮＴＡ、大学が共催）に出席させた。

（２）当試験場仲間マルティン研究員（野菜担当）を９月15日～同20日、サン・ファン州サン・ファン市で開催された「第19回アルゼンティン国野菜学会」に出席（参加数約300人）させた。

（３）当試験場森重ダニエル研究員（花卉担当）をＣ／Ｐ研修として、９月８日～12月28日まで、岡山大学で「花卉園芸」を研修させた。

（４）コリエンテス州「野菜生産技術センター」平井専門家の帰国報告会（場所：ア事務所）に、当試験場野菜担当研究員２名を出席させた（8/21）。

２．招聘（外国人研究員）

なし。

３．研修等

（１）国立ブエノス・アイレス大学農学部からの、卒業論文作成学生の研修受け入れ要請に応え、学生３名を個別研修として第１四半期と第２四半期に受け入れて技術指導を行った。指導は１週間に１回で、研修テーマは夫々、「ア国原産のチリアヤメの生態」、「カーネーションの無病苗の培地比較」及び「パンジーの冷蔵試験」であった。

（２）国立モロン大学農学部からの、学生野外実習生として当試験場での実習要請に応え、学生２名を１週間に１回半日、第１～２四半期に受け入れ、「野菜苗生産」について技術指導を行った。

（5）国立モロン大学農学部の農業展覧会で、学生・農家１０名を対象に、当試験場仲間マルティン研究員（野菜試験・普及担当）が、「日本野菜」の紹介と栽培法等について、２時間講演した（７月30日）。

４．共同研究等

（1）国立ブエノス・アイレス大学農学部の要請により、同農学部と花卉のバイラス病について共同調査を行った(7/18)。

５．その他

（1）ＪＩＣＡ３農試(ﾊﾟﾗｸﾞｱｲ、ﾎﾞﾘﾋﾞｨｱ、ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝの各試験場)及びサンパウロ事務所(最新農業技術情報の提供、在伯農業専門家の派遣と先進地農業研修業務担当）の各場長と関係職員が一堂に会し、「各試験場とサンパウロ事務所が夫々の業務を発表することにより、相互の連携の可能性の検討と意見交換を通して、今後の業務遂行上の参考に資する」ことを目的として、12月19日から同20日までの２日間、アルゼンティン事務所を会場にして開催した。同会議の内容については、12月24日付ＡＤ444にて報告済。

（2）「南米大豆の高位生産・利用技術の総合的開発研究」調査団一行（加藤次長：農水省農業研究センター、藤崎情報官：ＪＩＲＣＡＳ、ほか１名）の当試験場視察・来場を機に、ＪＩＲＣＡＳと当試験場との今後の連携の可能性等について意見交換を行った。

（3）当試験場とパラグァイ農業総合試験場との野菜試験研究業務等の連携の可能性についての打ち合わせ及び視察のため、当試験場より仲間マルティン研究員（野菜試験担当）ほか１名を派遣した。

（4）コリエンテス州「野菜生産技術センター」（元ＪＩＣＡミニプロ）との技術交流のため、同センターへ西　新也専門家（野菜－短期）と当試験場仲間マルティン研究員（野菜試験担当）を派遣した。

（5）コリエンテス州「野菜生産技術センター」研究者３名(PERRENS Guillermo、TERADA Graciela、YOGI Diana)を当試験場に招き、今後の野菜試験の連携の可能性について、意見交換を行った。

（6）ＩＮＴＡモンテカルロ試験場へ山田寿専門家（果樹－短期）と当試験場樽谷政憲研究員（果樹試験担当）を派遣し、果樹（主としてウンシュウミカン）の栽培技術についての意見交換を行った。

（7）ＩＮＴＡアルト・パージェ試験場へ同じく山田寿専門家（果樹－短期）と当試験場樽谷政憲研究員（果樹試験担当）を派遣し、果樹(ﾘﾝｺﾞ、ﾅｼ、ｽﾓﾓ、ﾌﾞﾄﾞｳ)の栽培技術についての意見交換を行うとともに、日本より導入したリンゴ(４品種)、西洋ナシ(5品種)の穂木の実生苗の接木繁殖を依頼した。

（8）当試験場の今後の新規技術協力案件の計画・実施の参考に資するため、チリへ当ア事務所より調査団を派遣（団長：遊佐健輔場長－総括、団員：安井公一専門家－収集・分類・保存、有隅健一専門家－育種、山本ﾌｱﾝ･ｶﾙﾛｽ職員－技術協力・業務調整）し、「チリ植物遺伝資源計画」を調査するとともに、同計画関係者との意見交換をおこなった(3/11～3/14)。

## 第６章　特別資料

### 第１節　気象概要

１．当試験場が所在しているＩＮＴＡカステラール敷地内でのＩＮＴＡの気象観測結果、及び当試験場バラデーロ果樹圃場での気象観測結果は、夫々別添２２及び２３の通り。

第２節　平成８年度研究報告一覧

| 年次 | 研　究　報　告　名 | 報　告　者 | 発　　行 |
|---|---|---|---|
| 1996<br>(H8) | 「総合報告書－果樹」 | 伴野　潔 | 国際協力事業団<br>ｱﾙｾﾞﾝﾃｨﾝ事務所 |
| 1996<br>(H8) | 「総合報告書－野菜」 | 西　新也 | 国際協力事業団<br>ｱﾙｾﾞﾝﾃｨﾝ事務所 |
| 1996<br>(H8) | 「総合報告書－果樹」 | 山田　寿 | 国際協力事業団<br>ｱﾙｾﾞﾝﾃｨﾝ事務所 |
| 1996<br>(H8) | 「1995(平成7年)年度試験研究実績」<br>(花卉2課題、野菜1課題、果樹3課題) | 安井公一ほか<br>試験場研究員 | 国際協力事業団<br>ｱﾙｾﾞﾝﾃｨﾝ事務所 |

第３節　出版物一覧

適正技術開発研究の一環として、花卉と野菜の栽培マニュアル用に、次の資料（西文、和文）を作成した。次年度、関係者に配布の予定。

１．花卉：「花卉の催し芽繁殖」
２．野菜：「野菜栽培」

第４節　場内見取り図

１．カステラール本場（別添２４）
２．バラデーロ果樹圃場（別添２５）

以　上

# アルゼンティン園芸総合試験場年報

## 添付資料リスト


ページ

1．園芸総合試験場中長期試験研究計画 ---------- 1

2．園芸総合試験場研修事業研修生募集案内（らぷらた報知－8.12.19付） ---------- 5

3．園芸総合試験場研修事業研修生募集記事（らぷらた報知－8.12.21付） ---------- 6

4．第１回日系農家園芸生産物品評会開催予定記事（らぷらた報知－8.4.16付） ---------- 7

5．第１回日系農家園芸生産物品評会開催結果記事（らぷらた報知－8.5.30付） ---------- 8

6．第１回日系農家園芸生産物品評会開催結果解説記事（らぷらた報知－8.6.8付） ---------- 9

7．日本野菜の紹介記事(当地農業雑誌「SUPER CAMPO 6月号) ----------１０

8．第１回日系農家園芸生産物品評会出品内容等記事（日農協ニュース　10号）----------１５

9．安井公一専門家による第１回日系農家園芸生産物品評会の講評掲載記事
(和文、西文。日農協ニュース　11号）----------１７

10. 第１回日系農家園芸生産物品評会記事(当地農業雑誌「SUPER CAMPO 7月号)----------２５

11. エスコバール「花祭り」の紹介記事（らぷらた報知－8.9.12付） ----------２７

12. 第２回日系農家園芸生産物品評会開催予定記事（らぷらた報知－8.9.21付） ----------２８

13. 第２回日系農家園芸生産物品評会開催予定記事（らぷらた報知－8.10.19付) ----------２９

14. 第２回日系農家園芸生産物品評会開催結果記事（らぷらた報知－8.11.2付） ----------３０

15. 中堅移住者本邦研修生の当試験場での研修報告会紹介記事（らぷらた報知－8.1.14付） ------３１

16. 「総合業務報告書」－－果樹：判野　潔(短期派遣専門家)----------３２
(32-1~48)

17. 「総合業務報告書」－－野菜：西　新也(短期派遣専門家)----------３３
(33-1~48)

18. 「総合業務報告書」ーー果樹：山田　寿(短期派遣専門家)----------３４
(34-1~53)
19. 当試験場が実施した研修事業の研修の模様写真集 ----------３５
(35-1~5)
20. 第２回日系農家園芸生産物品評会写真集 ----------３６
(36-1~27)
21. ＩＮＴＡﾌｧﾏｲｼﾞｬ試験場主催の「第２回花卉・観葉植物セミナー」のプログラム及び同セミナーにおける安井公一専門家の「ユーストマ及びキクの栽培」についての講演風景----------３７

22. 気象データ（ＩＮＴＡカステラール観測--1996.1~1996.12）----------４０
(40-1~17)
23. 気象データ（当試験場バラデーロ果樹圃場観測--1996.1~1996.12）----------４１
(41-1~4)
24. 当試験場カステラール本場見取り図 ----------４２

25. 当試験場バラデーロ果樹圃場見取り図----------４３

以　上

# アルゼンティン園芸総合試験場（CETEFFHO）中長期試験研究計画

1997.02.28 (1/4)

| 研究目標 | 研究課題 大課題 | 研究課題 中課題 | 研究課題 小課題 | 計画期間 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ．花卉栽培体系の確立 | 1．栽培技術改善（対象とする花卉）<br>切花用花卉：カーネーション、キク、バラ、フリージャ、トルコギキョウ、ユリ類、アルストロメリア、グロリオーサ、デルフィニウム、ガーベラ他<br>鉢花用花卉：アザレア、シクラメン、ラン類 ポインセチア他 | 1）品種・系統に関する試験 | a）カーネーション の新品種導入及び現地適応試験 | 1997 ～ 2000 | |
| | | | b）宿根カスミソウ の新品種導入及び現地適応試験 | 1997 ～ 1998 | |
| | | | c）ユーストマの新品種導入及び現地適応試験 | 1996 ～ 1998 | |
| | | | d）ユリ類、アルストロメリア の現地適応試験 | 1996 ～ 1998 | |
| | | | e）グロリオーサ、デルフィニウムの現地適応試験 | 1997 ～ 1999 | |
| | | 2）開花調節と作型開発に関する試験 | a）ユーストマの冬出し（出荷）栽培に係る試験 | 1996 ～ 1998 | |
| | | | b）アザレア及びその他の開花調節に関する試験 | 1997 ～ 2003 | |
| | | | c）宿根アスターの周年出荷に関する試験 | 1996 ～ 1997 | |
| | | | d）フリージャの抑制栽培に関する試験 | 1997 ～ 1999 | |
| | | | e）ユリの促成栽培に関する試験 | 1997 ～ 1999 | |
| | 2．優良系統の選抜及び組織培養法による栽培技術の改善 | 1）優良系統の選抜 | a）アルゼンティン 国原産の花卉類の育種試験（バーベナ、アルストロメリア、オンシジュウム、ペチュニア他） | 1999 ～ 2003 | |
| | | 2）適正培地等の検索試験 | a）切り花類の無病苗培養試験（ガーベラ、ユリ類、キク、カーネーション 他） | 1996 ～ 2000 | |
| | | | b）鉢花類の大量増殖法培養試験（シクラメン、ラン類、ポインセチア 他） | 1997 ～ 2000 | |
| | | 3）バイオテクノロジー 手法の応用 | a）花卉原生種のＤＮＡレベルにおける遺伝的解析 | 1998 ～ 2002 | |

別添1.

# アルゼンティン園芸総合試験場（CETEFFHO）中長期試験研究計画



| 研究目標 | 研究課題 | | | 計画期間 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 大課題 | 中課題 | 小課題 | | |
| | 3．土壌環境の改善 | 1）鉢花用標準培養土の作成 | a）培養土資材の特性調査 | 1997 ～ 1999 | |
| | | | b）標準培養土の組成の検討 | 1997 ～ 1999 | |
| | | | c）標準培養土適応試験 | 1997 ～ 1999 | |
| | 4．病虫害防除対策技術の改善 | 1）病害虫防除に関する試験 | a）ｶｰﾈｰｼｮﾝ の病害虫の診断と防除基準の検討 | 1996 ～ 1998 | |
| | | | b）ｷｸの病害虫の診断と防除基準の検討 | 1996 ～ 1998 | |
| | | | c）ﾊﾞﾗの病害虫の診断と防除基準の検討 | 1996 ～ 1998 | |
| | 5．栽培施設・資材の改善 | 1）新資材導入に伴う栽培試験 | a）底面給水法に関する試験（ｼｸﾗﾒﾝ等鉢花） | 1998 ～ 1999 | |
| | | | b）ベンチ栽培に関する試験（ﾊﾞﾗのロックウール栽培等） | 1998 ～ 1999 | |
| | | 2）セル成型苗生産システムの導入 | a）培養土と養・水分管理に関する試験 | 1998 ～ 2000 | |
| | 6．ポスト・ハーベストに係る検討 | 1）延命に関する試験 | a）延命剤の効果試験 | 1995 ～ 1997 | |
| | 7．遺伝資源探索 | 1）遺伝資源の収集・保存 | a）南アメリカ原産の花卉類採集（ﾊﾞｰﾍﾞﾅ、ｱﾙｽﾄﾛﾒﾘｱ、ﾍﾟﾁｭﾆｱ他） | 1996 ～ 2003 | |

# アルゼンティン園芸総合試験場（CETEFFHO）中長期試験研究計画

| 研究目標 | 研究課題 | | | 計画期間 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 大課題 | 中課題 | 小課題 | | |
| II．果樹栽培体系の確立 | 1．新規導入果樹の適応試験 | 1）品種適応試験 | a）当初導入果樹８種類の品種適応試験（ニホンナシ、ウメ、モモ、ブドウ、ウンシュウミカン、カキ、リンゴ、ビワ） | 1986 ～ 2001 | |
| | | | b）新規導入果樹及び品種の適応試験（キウイ、クリ、オウトウ、ナシ、リンゴ） | 1995 ～ 2004 | |
| | 2．省力化・高品質果実生産の技術開発試験 | 1）台木に関する試験 | a）当初導入果樹の矮性台栽培試験（リンゴ） | 1986 ～ 2000 | |
| | | | b）整枝法と関連した矮性台栽培試験（リンゴ、ナシ） | 1997 ～ 2006 | |
| | | | c）線虫抵抗性台木の栽培試験（モモ） | 1997 ～ 2006 | |
| | | 2）栽培密度に関する試験 | a）密植栽培試験（リンゴ、モモ、ナシ、ブドウ、ウメ、カキ、ミカン） | 1986 ～ 2000 | |
| | | | b）整枝法と関連した栽植密度試験（リンゴ、ナシ） | 1997 ～ 2006 | |
| | | 3）整枝・剪定に関する試験 | a）改植果樹３種類の並木仕立て試験（ナシ、ミカン、カキ） | 1992 ～ 2003 | |
| | | | b）二段垣根・タチュラ・パルメット仕立てによる栽培試験（ナシ、リンゴ） | 1997 ～ 2006 | |
| | | 4）結実に関する試験 | a）無核化・花振い防止剤試験（ブドウ） | 1997 ～ 1999 | |
| | | | b）休眠打破剤試験（ブドウ、リンゴ） | 1997 ～ 1999 | |
| | | | c）摘花・果剤試験（リンゴ、ミカン） | 1997 ～ 1999 | |
| | | | d）落果防止剤試験（リンゴ、ナシ） | 1997 ～ 1999 | |
| | | 5）土壌管理に関する試験 | a）マイクロスプリンクラー、ドリップイリゲーションシステムの導入試験 | 1997 ～ 2000 | |
| | | | b）改植時の土壌改良に関する試験 | 1997 ～ 2000 | |
| | | 6）施設栽培に関する試験 | a）加温促成栽培試験（ブドウ） | 1996 ～ 2000 | |
| | | | b）屋根掛け栽培試験（ブドウ、キウイ） | 1996 ～ 2000 | |

# アルゼンティン園芸総合試験場（CETEFFHO）中長期試験研究計画



| 研究目標 | 研究課題 | | | 計画期間 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 大課題 | 中課題 | 小課題 | | |
| Ⅲ．優良品質野菜の集約的栽培体系の確立 | 1．栽培技術改善 | 1）セル成型苗システムの導入 | a）育苗試験（ｷｭｳﾘ、ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ、ｶﾘﾌﾗﾜｰ、ｷｬﾍﾞﾂ） | 1996 ～ 1998 | |
| | | 2）土壌条件の不良に基づく生産力の低下とその対策 | a）土壌の塩類集積対策 | 1998 ～ 1999 | |
| | | | b）太陽熱土壌消毒法の検討 | 1997 ～ 1998 | |
| | | 3）作型・品種適応試験 | a）ﾚﾀｽ、ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ、ｶﾘﾌﾗﾜｰ、ｷｬﾍﾞﾂ、ｲﾁｺﾞ | 1996 ～ 1998 | |
| | 2．栽培施設・資材の検討 | 1）ソイルレス・カルチャー技術の開発 | a）ロックウール栽培試験 | 1998 ～ 2000 | |
| | | | b）養液栽培試験 | 1998 ～ 2000 | |
| | 3．病虫害防除対策技術の改善 | 1）主要野菜の病虫害防除対策 | a）トマト、キュウリ、ナス等の耐病性台木試験 | 1995 ～ 1997 | |
| | | | b）トマト、ピーマンの病虫害防除試験 | 1997 ～ 1999 | |
| | | | c）シルバーを利用したアブラムシ忌避 | 1997 ～ 1998 | |
| | 4．出荷・販売体制の改善 | 1）収穫後の調整法の検討 | a）包装・予冷・冷蔵・冷凍野菜の処理 | 1999 ～ 2000 | |

別添2.

# 月例理事会　盛大予想さ

## 日会創立80周年記念晩

### 公館、事業団、政府要人

在亜日本人会の定例理事会が十二日夜開かれた。

型通り会務会計報告があり、承認されたのに続いて▼ブエノス　アイレス・オリンピック調査団一行（日本代表猪谷千春氏を含む）来亜に際し、高見日会長が振袖姿の日系子女四名と共に出迎えたこと（これは亜国が二〇〇四年の国際オリンピック大会の開催地として立候補していることについて国際オリンピック委員会からブエノス　アイレス市調査のため来亜したことによる）

▼今年の〈秋の叙勲〉でそれぞれ勲六等単光旭日章を授与された山本隆行、酒井和民、関谷修三氏の叙勲祝賀会に高見・新里正副会長出席したこと▼去る十一月二十三日行われたAUN（日系学士会）の忘年会に高見会長外三名が出席したこと▼ANULP（ラプラタ大学日系学生協会）の忘年会に高見会長と屋富祖幹事が出席したこと▼「セントロ日系」と「亜日文化財団」共催の今年の優秀日系子弟顕彰式を兼ねた忘年会に出席したこと▼去る七日、在亜日系団体連合会（FANA）召集の在亜日系団体会長・代表会議に関する報告が行われ、そのあと在亜日本人会創立八十周年記念行事の締括りとして、今月二十一日夜「シエラトン　ホテル」で開催される晩餐会の最終的打ち合わせに入った。公館から山口公使夫妻、浅野領事夫妻、国際協力事業団から福田亜国事務所長、駐亜アメリカ大使館代理大使（ジェームズ・チーク大使は任期満ちて最近、帰国、後任は未だ決定されていない）の出席が確認されている外、メネム大統領を初め亜国中央政府及びブエノスアイレス市政府に対しても招待状が出席が期待

また、叙も招待状が当日、出席章をつけて望している。各団体及び済みである。都合もありれるよう八二）にと

この外、並びに従業従業員夏季合運動場の議があり、

なお、高来年一月三四月帰亜の

在亜日会行事の一環日夜、シエ援の下に同

て作った〈ペヘレイ寿司〉が食卓を飾った。余興に「エルソル　ナシエンテ」で知られる「谷口コンフント」がギターで日亜両国民謡を歌い、民謡詩人杉田俊夫（故人）作詞、〈ガウチョ　ハポネース〉で有名な高野太郎作曲の「ペヘレイの夢」を合唱して「日亜ペヘレイ協会」創立三十周年記念の催しを終ったが、正面に飾られたペヘレイ剥製の銀鱗がこの日の意義ある催しを象徴していた。協会生みの親の一人にしてここまで持って来た光田会長の胸中やいかん。

▼一年から六年までのコース
▼会話コース
▼個人教授
▼日本語能力試験準備（日本政府による資格証明書授与）

この外、折紙と墨絵のコースもある。

詳細は前記場所（八一三＝四二〇〇）に問い合わせること。応対は月曜から金曜まで十八時から二十時三十分までの間となっている。

## 日本人カ

設六〇周年会が七日り、ビクトパラグイ一れ、日系人

はじめに教、R・グマリオ、フの司祭でミた、寄贈さ範の文化刺の最後の晩り、そのあ催された。

まず、比挨拶、つづより、協会田カルロス

（土）三面、伏見義雄の会葬御礼広告中、次男アルベルト（清二）を謙二に訂正しおわび申し上げます。

★セントロ日系主催の日本・ペルー商工会議所カップのゴルフ大会が十二月二十二日（日）午前八時半より、ラス・オルキーデアスで行われる。

★亜国ゲートボール協会へコールドバ日会GB部、ミシオネス・セントロ・グループよりそれぞれ五〇ペソの寄付があった。

★会費値下げ

仏教会では最近の不況を考慮して来年度（九七年度）から会費と管理費を八ペソに改めた。

九六年度分は従来通り十ペソです。

★兼次博安氏よりブルサーコ日本人会へ百ペソ、同婦人部へ百ペソ、兼次テレサさんより婦人部へ百ペソ、いずれも香典返しとして寄付があった。

★【訂正】本紙十二月十四日号の「セントロ日系の顕彰行事」の記事中、故・谷口和恵（文化刺繍）さんへの追悼表彰状を受けたのは、谷口かずえさんではなく、谷口ロサーナさんに訂正します。

★今年の秋の叙勲で勲六等旭日単光章を授与された酒井和民氏は叙勲記念として「ニッカイ共済会」に千ドル寄付。

## 【短信】

★国際協力事業団事務所・園芸総合試験場では、「花卉の組織培養」研修コースを開設。研修生を募集中。研修要領の詳細についてはJICA園芸総合試験場カステラール本場へ（電四八一＝三七三六と四八一＝三八六四）に問い合わせることになっている。

尚、研修要領については次号日農協理事会の記事内に記載する。

★【訂正】十二月七日


## 新年祝賀会御案内

新年祝賀会を左記に頼り行いますので長野県人会会員の皆様御家族お揃いにておいで下さいます様御案内申し上げます。

日時、一月十二日（日）正午
場所　マル　マリスコ・マル
　　市内ディアス・ペレス街　三八七九番

当日の一週間前までに出席の人数を左記の諸氏に必ず御連絡下さい。池田〇三二〇ー八〇二八七　小坂〇三二〇ー八〇三七四　小池〇三二〇ー八〇二六八

長野県人会

## 指圧整体教室

頭面神経痛を加えます
市内ギード街一九四八

別添3.

# 日農協理事会
## 「花卉の組織培養」受講生募集
### 来月9日、研修生報告会

日系農業者団体協議会の定例理事会が十二日午後二時半より、カステラルの園芸総合試験場会議室で行われた。

石郷嘉正会長を議長に主な報告、決議事項は次の通り。

▼会務報告　五十嵐一哲青年ボランティアは例年一月より、週二回、日農協に関連した仕事を試験場で行う。

▼会長報告●ブラジルより木本、黒沢、中川の三農業専門家が来ア、主として野菜研究グループそのほか花卉関係の視察と講演を行った。三名別々に来アしたが、三名一緒に来アし視察した方が関連性のある効果がでるのではないか。レベルアップが見られたが、これからさらに一歩進むには、是非土壌分析が必要、という報告があった（最終報告はのち程届けられる）。これに対して野菜研から、試験場の方で土壌分析ラボラトーリオをひらいて欲しい、という要望が出た●来年度研修生候補者に、コマウエ果樹研の今井氏を加える●JA拓の研修生候補、全員パス●石郷会長と五十嵐青年ボランティア二人でコマウエを訪問。リンゴ園、INTA、モーニョ・アスール・リンゴ集結場、ジュース工場などを見学、のち歓迎会に臨み懇談。プエノスからの視察旅行歓迎とのこと。次の品評会には全員が参加したい、と積極的だった。

▼受講生募集　JICA（国際協力事業団）アルゼンチン事務所では、平成八年研修コースとして、カステラルの園芸総合試験場で行う「花卉の組織培養」の受講生募集をしている。年齢は原則として満十八才～三〇才未満の男女で、義務教育課程終了以上の者。研修期間は一九九七年一月十三日から二十四日まで、九時より十七時まで、研修申し込み書（日農協で各研究グループに配布）をJICA事務所、または園芸総試カステラル事務所に九七年一月七日までに届けること。原則として通学、但し、試験場で[illegible]の男子四名以内の宿泊可能、募集人員十名以内。

▼中堅研修生の報告会　黒田、小池、松原三中堅研修生の帰国報告会を一月九日正午より、会員の顔合わせアサード会も兼ねて、カステラルの園芸総試で行う。会費は協議会負担、クビエルト、皿、各自持参、申し込み三日までに各代表理事へ

▼農業業界紙　青年ボランティア用の年間八百ドル枠の活動費を、農業業界誌（日本語、スペイン語）の購入にあてる。

▼助成金　助成金（約二〇万円）の必要なグループは一月九日までに申し込むこと。

▼次期品評会　コロニア・ラプラタ会館を候補会場にして、四月十八・十九・二〇日を予定。野菜、果樹を中心にした品評会になる。

そのほか、日本語の分からないグループ推薦理事が指名される可能性もあるところから、理事会の進行は日本語のほかスペイン語で要点を説明する、あるいは、スペイン語で発言してもよい、次第にスペイン語で議事進行する段階へ移ることにしたい、という意見が出された。

# 日亜学院が
## 初の《日本の子ども祭り》
### 手製の「おみこし」かついで

学芸会、終業式、卒業式をおえた日亜学院では十四日（土）夕方から、初めての「日本の子ども祭り」を催したが、多くの児童、教師、卒業生、父兄が参加してにぎわった。

校庭は提燈（ちょうちん）色とりどりの三角旗、風船で飾られ、神成校長、川上シニア・ボランティア専門家、女の先生たちの涼しそうな浴衣（ゆかた）姿、父兄や卒業生のハッピ姿、浴衣に赤いオビをしめた小さい女の子など、日本のお祭りの雰囲気は充分。

さらに、けん玉、めんこ、びん吊り、人間ゲートボールのコーナーや、囲碁、五目ならべ、折紙、絵てがみを教えるところも。売店にはお弁当サンドウィッチ、パンチョ、エンパナーダ、飲物、昔なつかしいかき氷があり、餅つきには父兄、子供たちが参加した。

盆おろどりの炭坑ぶしと花笠音頭は先生たちを先頭に子どもたち、卒業生、父兄が慣れない手つき足はこびで輪になって踊ったが、このお祭りのメーン（中心）は何といっても《御神輿》（おみこし）だった。日亜学院苦心の手製のものだが、金翅鳥をかざった金色の屋根つきの本格的なもので、先生や卒業生、上級生がかついで気勢をあげ、最後は沖縄風にカチャーシーでしめくくった。

バイリンガル（二か国語併用）の日亜学院では、日本語と日本の文化を伝える教育を行っているが、さらにそれを、《遊び》を通して具体的な雰囲気でつたえようとする試みが、こう「日本の子ども祭り」。この初めてのお祭りに、二世、三世、混血の生徒

# 茨城県人会
## これは珍
### 日本料

去る十四日正午、在亜日本人会館食堂で開催された在亜茨城県人会の忘年会の席上、来年の同県青研修生が紹介された。一人は高倉ガブリエル君（高倉謙氏孫）で他は宮路エレーナ（旧姓高倉、高倉謙氏娘）。二人とも日本料理研修が目的という。

ガブリエル君はアカスーソ市エルカーノ街八八八番で最近亜国人が開店したレストラン「エル　モリーノ」で、エレーナさんの方はブエノスアイレス市パラグアイとレコンキスタの街角にある日本料理

別添4.



政府は近く〈購入〉を前提にした〈借家契約〉システムを発表することになった。この契約は法令第二四・四四一／九五号を通じて金融機関や建築会社及び不動産会社の如き特別企業が担当して行うもので亜国勤業銀行も新しい住宅用家屋の購入にこのシステムを採用することになろうとのことである。

所謂〈月賦払い〉だが従来の月賦払いシステムと異なるのは購入に当って一部前払いや事前貯蓄の必要がなく最初の第一回払いこみで済み、また保証や担保を要求されることなく行なわれる点である。

と言うと、貸し付け機関は支払い不履行で生じた債務（月賦プラス利子）の支払い猶予期間を五日間与えて負債を取り消させるが、それができない或いはそれをしない場合、購入不動産の返却を要求する。そのあとで金融機関及び貸し出しを行った特別企業は月賦プラス利子の蓄積額の支払いを要求することができる。

▼なお、右リージング システムは住宅用家屋のみならず自動車、資本財の購入にも適用されるが、殊に資本財の購入については中小企業に利するところ大なるものがあるとして歓迎されている。ちなみに右システムは日本では自動車購入に、チリでは住宅購入に利用されているとのことである。

つための重要な措置である」と言っている。

▼ところで右システムの運営は次の如くである。

先ず不動産購入に当って購入希望者は不動産価格の二五％までを向う五ヶ年の間に支払うものとする。一ヶ年の支払いは家族収入の二五％乃至三三％、例えば月収二千ペソならば一ヵ月の支払いは五〇〇ペソ乃至六六〇ペソというわけで、つまり家賃を払っていく積もりで払って行けばよい。この場合のクレジットは一〇万ドルということになる。購入に際しての不動産価

これは右酒楼の経営主邱嘉文氏と日本人呼び屋（プロモーター）で知られる金城武一氏が共同で始めたもので〈タンゴ ショウ〉と銘打っているがタンゴだけでなくフォルクローレから中国人によるアクロバットや手品まで含むバラエテーに富んだもの

みながら気軽にタンゴを聴いたり見たりできるのが魅力。

イナウグラシオンに主演した芸能人の中に晁瑶建（チャオ ヤオ ジアン）という中国人女性歌手がいたが素晴しいソプラノでオペラを歌わせたらと思われる位。目下、先

## 日農協議会 初の生産物品評会 向けて、詰め

### 同日、研修報告会も

日系農業者団体協議会の四月定例理事会が十一日（木）午後二時半すぎより、亜拓会議室でひらかれた。

石郷嘉正会長を議長に、来月二十一より二十四日まで行われる「第一回園芸生産物品評会」について、次のような報告や決定があった。

▼部門 ◎切り花◎鉢物（蘭、花壇苗を含む）◎観葉（樹木類を含む）◎果樹、に野菜部門が◎葉根野菜類（キャベツ、ニンジン、など）◎果菜類（トマト、キュウリなど）に分かれ、全部で六部門。

▼審査委員 委員長＝安井公一JICA派遣農業専門家、野菜・果樹＝仲間マルティン農業技師、INTA（国立農業技術試験場）より二名、花卉＝森重ダニエル、佐々木マルセロ両農業技師、ブ大農学部より一名。

▼出品 各研究グループに出品申込み用紙（日、西両語）が配布されたが、出品申し込み締切りは五月九日の定例理事会の日まで。出品物の搬入は五月二十一日で、同日、イナウグラシオン、審査が行われる。会員及び一般の見学は二十二日より二十四日で（十時～十六時）。

▼賞 各部門一位に総合園芸試験場杯、二位以下に日農協杯。そのほか持ち回り杯、特別賞も検討中。

品評会終了後、即売しないことを決めた。出品した会員は、自分の園の紹介、案内タルヘッタを置くこと、個人的な商談は出来る。また、要請に応じて会場受付けで、出品者の電話、住所を教えることが出来る。

なお、品評会の期間を利用して、日本やブラジルで研修した石郷嘉正、久木ビオレータ、高橋靖宏、菊江氏らの報告会、総合園芸試験場の事業紹介、案内などのイベントも行う。今回は生産者中心の生産物品評会だが、将来、消費者の要望に応える形の品評会にしたい、ことも話し合われた。

そのほか、亜拓を窓口にした来年の全拓連研修生を募集している。今年の研修生として斉藤ユリ子さんが出発したが、兵庫県の鉢物栽培農家に配置される。この制度は、はじめブラジルで予備研修した上で、そのあと一か年、日本の農家に寝泊りして働きながら実習や研修をするもので、全拓連より一か月四万円、農家より三万円、合計七万円が手当として支給される。

最後に、懇談の形で話し合いが行われ●理事、幹部を選挙で選び出すよりも、日農協のはっきりした路線を敷いていくためには、中期的な展望をした上で、当番の順序を決めてやった方がいいのではないか●まだ仕事の上で現役の人が幹部をやり、仕事に追われ、時間的、経済的に犠牲が大きい●給料制にするとやり易いが、問題は資金●自前の事務所、事務員が必要●JICAや日本側よりもっと支援をという声もあるが、依頼心はよくない。独立精神、独立採算をベースにしたい●二〇年、三〇年前だと、実習生・研修生制度があって、業界もイキがよかったが、それが望めないのが現状●四〇才以下の若手を盛りあげる体制づくりが必要●これから二世、三世が中核になるので、スペイン語のニュース、報告が欲しい。―などの意見が出た。

この日「日農協ニュース8号」が出た。次回例会は五月九日十四時よりカステラル総合園芸試験場で行われる。

## これは珍しい

### ―沖縄からバレー亜国のガッ

日本からアルゼンチンにフットボール研修に来るのは珍しくないが、沖縄から、バレーボール研修に自分のポケットマネーでやって来た若者がいる。

城間朋（しろま・とも）君（二一才・西原出身）がその人で、現在日本体育大会に在学中だが、十二月まで休暇を

別添5.



## 第一回園芸生産物品評会
# 全般的に高い品質揃う
### 市場開拓の姿勢も

日系農業者団体協議会主催の「第一回園芸生産物品評会」がカステラのINTA（国立農業技術総合試験場）内のJICA園芸総合試験場で去る二十一日から二十四日までひらかれたが、総合大賞（持ち回り賞状）に松原ウーゴ氏のパンジー（三色すみれ）特別賞（らぷらた報知賞）に具志堅ルイス氏のラパニート（蕪）が選ばれた。

同品評会は二十一日に審査、二十三日、石郷嘉正会長の日本研修報告「ブラグ苗生産について」、ボーイ・モロン大学教授（INTA研究員）の野菜に関するアルゼンチンとヨーロッパ市場の比較についての講演、二十四日は渡野既雄賞状が出席して授賞式があり、そのあと石郷会長の挨拶、安井審査委員長、仲間マルチン審査員の講評、遊佐　試験場長の挨拶があった。

品評会の結果は次の通り。

▼総合大賞　松原ウーゴ＝パンジー、特別賞　具志堅ルイス＝ラパニート。

▼切花①杉木朗＝ガーベラ、②山之内征治＝菊、③坂本エイジ＝アスター、高点者・久木テルモ＝ローサ、上ノ薗コウジ＝クラベル、西田カツミ＝フレーシア

▼鉢物・鉢花①松原ウーゴ＝パンジー②関比久タケヒロ＝シクラメン③小木曽マヌエル＝ポインセチア、高点者・野村カズヒサ＝カランチョエ。

▼観葉①長内範昌＝フィロデンドロン②黒田ヨシアキ＝エレーチョ③佐藤田ダニエル＝ポートゥス

▼野菜（根菜）①具志堅ルイス＝ラパニート②比嘉ホアキン＝サパージット③具志堅ルイス＝大根

▼野菜（葉菜）①比嘉盛繁＝ネギ②比嘉盛繁＝白菜③佐々木アレハンドロ＝キャベツ

▼果樹①前田マンサク＝ブドウ（巨峰）②佐藤功＝仲（次郎）③松井誠一＝リンゴ（フジ）

審査には安井公一・JICA派遣農業専門家（委員長）●花卉部門＝森重ダニエル、佐々木マルセロ、ロペルト・フェルナンド（INTA）

●野菜・果樹部＝仲間マルティン、ルイス・バルカーサ（INTA）、遊佐エドワルド、新垣フーリオ（以上いずれも農業技師）が当たった。

以上、審査に当たった二氏に感想を述べてもらった。

安井教授談　●シクラメン　世界に誇れるような大株が出ているが、花の形が反転して悪い。世界的な標準では欠点になるが、アルゼンチン人の好みに合っているので、考慮に入れた。生育の途中でする細かい操作（たとえば葉組こ）が出来てない　ナ　ミ二（小松）を出すなど、商品としてバラエティーの幅を広げるとまだ伸びる可能性あり●ブラグ苗　見本が初出品されたが、労力をはぶく意味で将来有望●ゴールド・クレスト　アルゼンチンに初のお目見得。薄緑色の矮木で、現代建築の部屋に適当。クリスマスフリーに利用され、これからの商品●ポインセチア　国際的にも負けない生産品●スパティフィラム、プリムラ、シンビジューム　花を見るべきものが花をつけていないのが出品され、評価に困った●蘭●花卉部門＝森重ダニエル、佐々木マルセロ、ロペルト・フェルナンド（INTA）

●野菜・果樹部＝仲間マルティン、ルイス・バルカーサ（INTA）、遊佐エドワルド、新垣フーリオ（以上いずれも農業技師）が当たった。

以上、審査に当たった二氏に感想を述べてもらった。

安井教授談　●シクラメン　世界に誇れるような大株が出ているが、花の形が反転して悪い。世界的な標準では欠点になるが、アルゼンチン人の好みに合っているので、考慮に入れた。生育の途中でする細かい操作（たとえば葉組こ）が出来てない　ナ　ミ二（小松）を出すなど、商品としてバラエティーの幅を広げるとまだ伸びる可能性あり●ブラグ苗　見本が初出品されたが、労力をはぶく意味で将来有望●ゴールド・クレスト　アルゼンチンに初のお目見得。薄緑色の矮木で、現代建築の部屋に適当。クリスマスフリーに利用され、これからの商品●ポインセチア　国際的にも負けない生産品●スパティフィラム、プリムラ、シンビジューム　花を見るべきものが花をつけていないのが出品され、評価に困った●蘭●赤一色だったのが、強烈な赤とか、パステルカラー（やわらかい感じの中間色）など新しい感じを早くキャッチしたが、アの場合は高早の感じ●朔　低温状態で開花させたので一番上の葉が大きすぎて、花のイメージを削いでいる●ガーベラ　世界的に恥ずかしくないもの。

以上、①色彩の光沢②花容③全体のバランス④病虫害、生理障害⑤市場性、の五項目で審査をすすめ、とくにアルゼンチン人にアピールする市場性に重点を置いた。

仲間審査員談　とくに、市場性につながる全体のバランス、（見てくれ）にポイントを置いた。市場開拓の姿勢が見られ、いま、生産者は百％変化している。一般的に高い品質。品評会に参加することが大切で、生産者自体が、他の同業者がどんなものを作りどのように出荷しているか、（見る）（考える）機会が与えられた。INTAの研究員や職員がかなり見に来て評価してくれて、INTAと一歩踏み込んだ（接近）があって効果的だった。

最後に石郷会長は「第一回で勝手が分からなかったが、多くの人が出品してくれた。直伝不足とINTA内でやった地理的条件、事情にしばられたが、週末も自由に出入りできる場所さがし、即売会もやるなど、反省会をやって、最初の経験を生かして次回につなぎたい」と語っていた。

## 在亜新潟県人会
# 本年度定期総会盛大に
### 新年度会長に山口義男氏

在亜新潟県人会の本年度定期総会が去る五月十九日十三時よりサンミゲル市の渡辺トマス氏宅で五十余名が出席して開催され、山口義男と山之内征治の両氏を正副会長に選出した。

総会は山口義男幹事の司会で進められ慣例通り会務、会計報告を承認して新年度役員選挙に移ったが役員選挙は理事会推選のリスタを承認して次の如く新役員会が構成された。

▼会　長＝山口義男

▼副会長＝山之内征治

▼幹　事＝佐藤功

▼副幹事＝猪又昭八

▼会　計＝小林宗生

▼副会計＝和田勇夫

▼相談役＝中川昇司

▼研修生担当＝切木エリサ

席上、新年度会長に選ばれた山口義男氏は中川元会長の労を謝すると共に多数の日系子弟が出席したことについて一層の協力と発展を期待する旨、就任挨拶を行った。

このあと今年三月三十日、母県で電内及び建築デザインの研修を終えて帰亜した切木エリサさんの研修の成果を示す立派な日本語による報告があったのに続いて今年度研修生の渡辺ギゼルモ君より「皆さんの推選に応え日本で一生懸命に勉強。皆さんの期待に添いたい」と、これまた立派な日本語で挨拶した。ちなみに渡辺ギゼルモ君は経済統計とコンピューターを研修する。

今年の総会は大先輩の金沢増蔵、富所進、渡辺登志三氏の出席に加えて二、三世の若い世代が多く出席するなど活気に溢れたものとなった。二、三世からは特に研修についての質問が多かったのは母県での研修に対する関心の強さを示すものとして頼母しかった。

## 在亜長野県人会
# 研修生の歓迎送会兼ね
### 百二十名出席して盛大に

在亜長野県人会の本年度定期総会が昨年度及び本年度研修生の歓迎送会を兼ねて去る五月十九日正午より市内ディアベーレス街のマル・マリスコ・マル中華料理店において約百二十名に及ぶ会員出席の下に盛大に開かれた。

今井会長の開会の挨拶に始まって慣通り会務・会計報告とその承認が行われたあと、昨年度母県研修生、新村ミリアンさんと森エリザベスさんより報告と謝辞があったのに続いて本年度研修生に選ばれた宇都宮さんより推選に対する感謝とその期待に応える決意と希望の言葉があった。ちなみに宇都宮さんは木曽の病院にて歯科師の研修を行うことになっており、六月一日、日本に向かう予定。

研修生は一九六八年、高山明子さんを第一回研修生として送り出して以来、四十余名に達しているところから「この機会に研修生の感想文を集録した記録を残しておきたいとの提案が大先輩に当たる矢島幸男氏より出され一同、これに賛成、その出版を進めることになった。

このあと県人の最長年者、高山森重氏の音頭で乾杯、昼食に移り雑談に花を咲かせて時の経つのも忘れた。午後四時、散会。

## 在亜日本人ゴルフ同好会
### 五月月例会　堀川重利氏優勝

在亜日本人ゴルフ同好会主催の五月度月例会が五月十八日（土）琉球パークゴルフ場で開かれたが堀川重利（自営業）が優勝した。当日の参加者五十四名。成績は次の通り。

優勝＝堀川重利（自営業）スコア65・金メダルと副賞。二位＝仲宗根誠（自営業）スコア67・銀メダル大。三位＝三村雄剛（亜南物産）スコア70・銅メダル小。七位＝坂口仁（三井物産）。BB＝五味陸明（トーメン）の順。

当日、ベスト・グロス・スコアの森原至氏に日商岩井、NEC、琉球パーク提供の副賞があった。商社マン・ゴルフとして発足した同好会のメンバーも最近では地元ゴルファー勢も多くなっており、充実したプレーで親睦の輪で広がっているという。

また恒例のリーファが三百枚も売れ日本種野菜、プランタ、仲、醤油、うどん、ウイスキー、ビーノ等々…賞品も豊富に出て楽しい親睦の一時（ヒトトキ）を過した。

十六時、会場を提供してくれた渡辺トマス氏に対する謝辞を含めた佐藤幹事の閉会の挨拶で解散。

## 教連のピンポン大会
# ラプラタ校が優勝

教連主催の第二十五回ピンポン大会が十九日（日）メルロ日本人会において行われたが遠くマルデルプラタから駆けつけた四名を合わせて十校、一五八名が参加した。順位は次の通り。

①ラプラタ校三五点②F・パレーラ校二七点③B亜学院二四点④西部校一〇点⑤ブルサーコ校九点⑥サルミエント校五点⑦メルロ校三点⑧エスコバル校三点⑨マルコスパス校一点。

## 第25回「日本有
# 亜国二世が
### 新人（

昨年、日本の歌謡界で最も注目されるようになった。「日本有線大賞（25回）」が東京で開かれ、全国に有線生放映された。亜国出身の二世歌手である谷沢英君が新人

## 帰国後の厳しい生活
### 中国残留孤児の子どもや孫

して生まれた。義勇軍隊員として十四歳で旧満州（現中国東北部）へ。終戦後、中国人民解放軍に入隊するが、行軍中に山中でオロチョン族に魅われる。そこで、狩猟生活に魅せられ、オロチョン族として生きる道を選んだ。

一九四九年の革命後、中国政府の少数民族定住化政策で農耕生活をするようになると、農業技術がある岩間さんが村づくりの中心になった。部族指導者の娘の莫金花さん（六七）と結婚、三人の子と育場を造って経営を軌道に乗せた岩間さんは、黒竜江省遜克県の政治協商会議副首席を経て、現在は黒竜江省の外事顧問も務める。

日本人孤児や残留婦人の子ども、孫は六割近くが日本語の会話や読み書きに不自由で、一割以上が失業状態、職があっても肉体労働に従業しているケースが多いなど、厳しい生活を強いられていることが、筑波大学社会学研究室の調査でわかった。六万人前後とみられる帰国者二、三世は、国の援護施策の対象外の八割弱を二世が占め、六五%がすでに結婚している。

中国での最終学歴は中学校以下が六割弱。日本で高校、短大、大学、各種専門学校を卒業している人は二割弱となっている。日本語能力については、聞く、話す、読む、書く、いずれでも六割近くが「不自由」と答えている。

生活の状況は、一三%が現在、生活保護を受ける。有職者は七割近く。うち、五八%が肉体労働、二九%が販売・サービス的労働で、事務や専

たという。

・岩間さんは「日本の投資でオロチョンの人が豊かになれるように努力したい」と話している。（朝日）

## 第一回「園芸生産物品評会」

既報、日系農業者団体協議会主催の第一回「園芸生産物品評会」が先月二十一日から二十四日まで、カステラルにあるINTA（国立農業技術試験場）内のJICA園芸総合試験場でひらかれた。

これは日農協に参加している各研究グループ、業者間のつながり、生産物の品質向上と刺激を狙ったもので内輪の品評会であり、カステラルのINTA内という場所柄同業者以外の観覧も期待できず、一工夫欲しい展示の仕方、多種類ある切花を賞一つに括った点など、考慮すべき点もあったが、全体的にプラス面が多かったようだ。

今回の品評会は特別に栽培した優秀なもの、つまり〈園芸〉でなく、市場に出す普段着の生産物を対象にした点でこれまでの品評会と違っていた。①色彩の光沢②花容③全体のバランス④病虫害・生理障害、とくに⑤アルゼンチン人にアピールする市場性、にポイントを置いたと審査委員会長の安井公一JICA派遣農業専門家は述べていたが、総合大賞の松原ウーゴ氏のバンジーと特別賞の具志堅ルイス氏のラバニートは、市場性を考慮に入れた生産物という点ですぐれていた。消費者重視の時代であり、審査のポイントと受賞した生産物を照らし合わせながら、それぞれ業者は一つの納得に達したり、自信を得たりしたはずである。「品評会に参加することが大切で、生産者自体が他の同業者がどんなものを作り、どのように出荷しているか、〈見る〉〈考える〉機会があたえられたのである」（仲間マルティン農業技師・審査員）。

これまでグループとして、とくに変貌をとげてきたのは野菜研究グループ。日農協議会の発足当時、野菜の売れ行きの急激な低落を経験している時期でもあり、状況に対応できないモタモタした姿勢が見えていた。畑の実作はほとんど一世から二世三世の手に移ったがプエノスのセントロに一度も出かけたことのない若者もいたほどで、昔と同じように惰性的に働き、惰性的に売りだしている様子がうかがわれた。ところが、この品評会では野菜の品質の評価が高かった。農業のやり方が変化していた。葉菜部門で一位二位を獲得した比嘉盛繁氏はこれまで若者を引張ってきたベテランの一人だが、この移り変わりは四〇年の野菜つくり生活の中で初めての経験だった。毎月一回グループの会合がつづけられ、土壌、病虫害、野菜の専門家の説明会や講演会があると、帰ってからも仲間同志で継続して話しあったり、スキヤキつつきながら月二回会合をかさねることもあるという。今では先頭になって行動しているのは若者たちで、野菜の温室づくりを手がけ、スーパーに生産物を入れるようになった。そうなると品質と生産性が要求されるが、グループに入っている業者と、そうでない業者に差ができてくるのは当然である。

話を花卉の方に戻すと、「その頃に比較して、非常に花の種類がふえ、品質も良くなった。研究熱心が評価された品評会」と評価するのは、一九七八年に来アして一年半滞在、指導したことのある安井農業専門家。しかし「仕事熱心だから、勤勉だから良い花が作れる、とは限らない。最後のキメつけは、やはり研究熱心と文化の伝統」ということになるようだ。「日本人は淡白な花、背筋のピシッとした花を好み、アルゼンチン人は華麗な花…」とつづけ「皆さん輸出に目を向けているようだが、切花輸出に関してはきびしい状況。世界の花の市場はコロンビア、ケニア、モロッコと労賃の安いところでやっていて、外国の資本と技術が入って伸びている。中国でも花を手がけはじめた。コストを気にすると勝負にならない。だから、品質と生産性をあげること。人間は食い物に関しては保守的だが、花には浮気をする。つまり、花を多様化してつねにお客さんを魅きつける商品を幅ひろく作りだすこと」と焦点をあてていた。

「農家の人は宣伝がヘタ」と指摘したのは森重ダニエル農業技師。「たとえば、ミルタ・レグランのテレビ番組がポートマム、ポインセチアで飾りつけられていた。テレビを見て花の名前を知りたがっている人は多いのに、花を提供した花商の名前は出ても花の名前、ましてや花を作った日系人の名前も出ない。テレビの反響は大きい」と。「ポルトガル系の人は大資本でやっていますよ。その点、日系の業者は規模が小さいからグループ活動で押していかないと…」ともつけ加えた。

ささやかな品評会だったが花つくり、野菜つくりにとって広い海を目の前に控えたようなもの。可能性をひめた海になるか、羅針盤なくして海にのりだすことになるのか、業者の姿勢、グループの力にかかわってくる問題であるようだ。（崎）

【ニューデリー】インドの盗賊団の元女首領で社会党下院議員になったプーラン・デビさん（三八）が、二十二日に招集された国会で議員としての宣誓をした。

デビさんは被差別カーストの極貧家庭に育ち、学校にも行っていないため宣誓文が読めず、下院事務職員が読んでくれたのをおうむ返しに復唱し、宣誓に代えた。今回、同様に文字が読めずにこの方法で宣誓をした新女性議員は計三人。教育の機会を持たなかった下層カースト・パワーが政界進出する時代だ。

デビさんは、一九九四年の仮釈放後に結婚した夫のカシャップさん（三八）や実母とともにニューデリー市内に住んでいるが、昔の盗賊団時代にデビさんに恨みを持つ敵が暗殺をたくらんでいるという情報があるため、常時三人前後のSPが警護に張りつけられる。

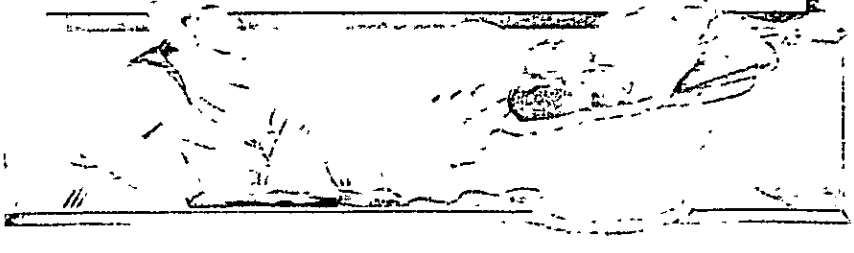
デビさんは「虐げられた貧しい人々と、社会的な弱者の女性の権利向上のために尽くしたい」と抱負を語っている。（朝日）

# Programando la huerta

Anticipo de todas las especies que podrá sembrar en julio. Cómo cultivarlas y cuándo cosecharlas.

**CALENDARIO**

| | | |
|---|---|---|
| *Achicoria (de hojas)* | Almácigos o asiento | Fin de invierno |
| *Alcaucil* | Asiento | Primavera |
| *Apio* | Asiento | Primavera |
| *Apio-nabo* | Almácigos o asiento | Primavera |
| *Arveja* | Asiento | Fin de invierno y primavera |
| *Batata* | Asiento | 120 a 210 días en adelante |
| *Berro* | Piletas | Primavera |
| *Borraja* | Asiento | Primavera |
| *Cardo* | Asiento | Primavera |
| *Cebolla* | Almácigos | Primavera |
| *Colinabo* | Asiento | Primavera |
| *Chirivía* | Asiento | Principios de la primavera |
| *Escarola* | Almácigos o asiento | Principios de la primavera |
| *Escorzonera* | Asiento | 200 días en adelante |
| *Espinaca* | Asiento | Fin de invierno en adelante |
| *Fresa* | Bajo vidrio | Primavera |
| *Lechuga* | Almácigos o asiento | 45 días en adelante |
| *Pepino* | Bajo vidrio | Primavera |
| *Perifollo* | Asiento | 80 días en adelante |
| *Pimiento* | Bajo vidrio | Primavera |
| *Puerro* | Almácigos | Primavera |
| *Rábano* | Asiento | Primavera |
| *Ruibarbo* | Almácigos | A partir del otoño |
| *Salsifí* | Asiento | 150 días en adelante |
| *Sandía* | Bajo vidrio | Primavera |
| *Tomate* | Bajo vidrio | Primavera |
| *Zapallito* | Bajo vidrio | Primavera |
| *Zanahoria* | Asiento | Primavera |



dad para ofrecer a sus clientes. Higa entrega lo que cultiva —semiprocesado— a lugares nuevos, es decir, que no son las clásicas verdulerías.

El consumo de hortalizas para el oriental significa la comida. En cambio, para los argentinos es un acompañante, generalmente de la carne. Angel Higa aclara que para él es necesario entender la diferencia entre producto y mercadería, lo que se ofrece a granel se desprecia, la idea es ofrecer mercadería, la que realizan solo distribuidores autorizados. Su propuesta es integral y se encuadra en un enfoque de producción orgánica, privilegiando el ecosistema y, como consecuencia de ello, también la salud humana. *"Nuestros productos son plantados y cultivados en suelos naturales, sin fertilizantes químicos, sin tratamientos en todo el ciclo de cultivo, con manejo semimecánico y utilizando microorganismos eficaces para tratar de proteger y conservar el delicado equilibrio ecológico"*, finaliza Higa.

El nutricionista Jorge Collia, que es médico sanitarista y responsable de varios programas de TV, es un propulsor incansable del consumo de frutas y hortalizas.

*"Las crucíferas son oriundas del Mediterráneo* —asegura el especialista— *y se sabe que se cultivaban en Egipto como plantas medicinales; Plinio aseguraba que curaban 87 dolencias, entre otras el dolor de cabeza, la sordera, la diarrea, la gota y los trastornos estomacales.*

**EL REPOLLO PRIMIGENIO.** El repollo es una hortaliza milenaria, considerada una de las primeras consumidas por el hombre; su composición nutricional es una fuente asombrosamante rica en diversos antioxidantes. Contiene betacaroteno y luteína (la mayor cantidad determinada entre las hortalizas); su contenido en vitamina C hace que una taza de repollo colorado aporte dos tercios de la dosis diaria necesaria. Aporta fibras y calcio y no posee sodio ni grasas. Destacados profesionales de la ciencia médica vienen sosteniendo la importancia del consumo de repollo en la prevención del cáncer ya que contiene elementos que ayudan a combatir los efectos nocivos de los agentes cancerígenos. En lo que hace a la prevención del cáncer de mama, sus componentes tienen un efecto antiestrogénico que acelera la eliminación de estrógenos del organismo. También se sabe de la eficacia del repollo contra el cán-

Las berenjenas orientales se caracterizan por su cáliz púrpura. Son muy tiernas pero de corta duración en poscosecha, de manera que se deshidratan fácilmente si no son comercializadas en el corto plazo. A la izquierda, el médico nutricionista Jorge Collia.

cer gástrico, de colon y pulmonar. Otro componente de la familia de las crucíferas es el repollito de Bruselas con cualidades semejantes a las de los repollos, anticancerosos, estrogénicos y abundantes en antioxidantes. Ricos en vitamina C, vitamina A, riboflavina, hierro, potasio y fibra, contienen más proteínas que la mayoría de las verduras. Son pobres en sodio y grasa; además se prestan para diversos usos culinarios.

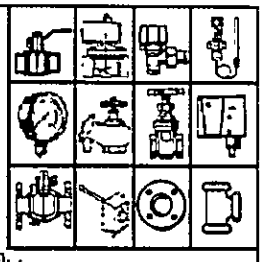
Dicen algunos autores que la coliflor es originaria de Oriente. Según cuenta la historia, el rey Sol era fanático del *"choufleur"*. Hoy esta hortaliza está reconocida por la Academia Nacional de Medicina de los Estados Unidos como una de las mejores para prevenir el cáncer de mama y de colon, ya que posee muchos de los compuestos anticancerosos y reguladores hormonales. Cuenta, además, con la cantidad suficiente de vitamina C como para cubrir la dosis mínima diaria. Es buena fuente de potasio, fibras, proteínas, calcio, hierro, fósforo, vitamina A, y es baja en calorías, grasa y sodio. Los nutricionistas recomiendan comerlas crudas o ligeramente cocidas, ya que el exceso de cocción destruye en parte su actividad farmacológi-

El shiso es una hierba muy popular en el Japón, indispensable para preparar hume. Además se la usa en guarniciones al igual que nosotros utilizamos el perejil.



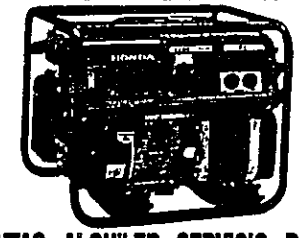
PARA PUBLICAR EN ESTA SECCION 982-4850 585-0389

PROVISION Y ASESORAMIENTO
Quemadores - Termostatos - Presostatos
Válvulas - Solenoides - Termocuplas
Antivibratorios - Bridas - Manómetros
Transformadores - Termómetros - Bombas
Accesorios Caños - Abrazaderas - Trampas
Robinetes - Juntas - Empaquetaduras
CORTAMOS Y ROSCAMOS CAÑOS A MEDIDA

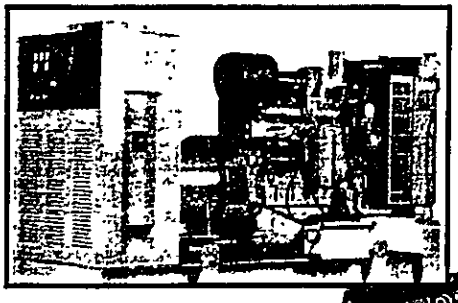


ESTACIONAMIENTO PARA CLIENTES EN BOLIVAR 441
ACCESORIESE en. .
ACESUR
Implementos Industriales Acesur S.A.
Bolivar 469 - (1066) Bs. As. Telefax: 342-1618

GRUPOS ELECTROGENOS
TECNOGE S.R.L.



TODOS LOS MODELOS PORTATILES Y ESTACIONARIOS
VENTAS - ALQUILER - SERVICIO - REPARACIONES c/ GARANTIA
DEUTZ - PERKINS - G.M. - VOLVO
DIESEL-GAS DE 1 A 500 K.V.A.
TODAS LAS TARJETAS



Concesionario oficial HONDA
LOS MEJORES PRECIOS DE PLAZA
MORON: COCHABAMBA 825 Tel.: 629-7580 / 489-4500
MORENO - Nine Center 037-37100 al 150 Int. 215

FLORICULTORES - HORTICULTORES

DISPONGO DE LEÑA PARA INVERNADERO (altas calorías)
MEDIDAS 60cm. x HASTA 25cm.,
GRUESO A PEDIDO (quebracho, itin)
PRECIO $ 27.- por Tns. sobre camión Prov. del Chaco
LLAMAR Agr. HERRERA ALDO Telfax 0731-60192
0731-60030 Partic. Después de las 21hs.
RIVADAVIA 1945 - LAS BREÑAS - CHACO

Al igual que el ajo, el nira y el negui contienen allina, una sustancia de fuerte efecto antimicrobial.

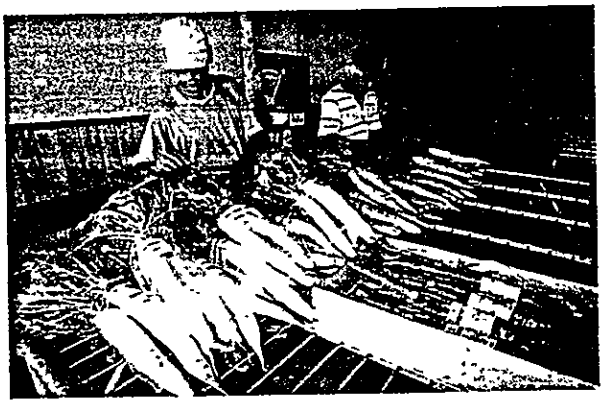
ca También pariente de las crucíferas es el broccoli (de origen italiano); se destaca por ser un conjunto único de agentes con- a enfermedades. Es abundante en an- oxidantes, como el betacaroteno, el glutation, los índoles, la vitamina C, la luteína y el gluconato. Destacados profesionales no dejan de recalcar su propiedad antiviral y antiulcerativa. Es una fuente excelente de cromo, que contribuye a regular la insulina y el azúcar en la sangre.

BERRO Y NABO. El berro es una planta vivaz, acuática, de la familia de las crucíferas, oriundo de Europa. Cuentan los historiadores que Aristófanes lo recomendaba para curar o prevenir la calvicie, como tranquilizante, diurético, cicatrizante y hasta para dar fuerza y coraje. El grato sabor picante permite que su consumo resulte un magnífico depurativo para la sangre y es empleado en medicina como antiescorbútico. La planta es utilizada por los laboratorios farmacéuticos para la fabricación de ciertos medicamentos. Posee alto contenido en vitaminas A, $B_1$, $B_2$, C, D y E, así como sales minerales, proteínas, fibra, calcio, fósforo, yodo y hierro.

El kiuri (pepino) se cultiva en invernáculo y con riego.

De sabor parecido al de la papa, pero con menos calorías, el nabo también pertenece a esta familia y, por lo tanto, cuenta con muchas de las propiedades de sus parientes el broccoli y el repollo. Es una raíz que contiene mucha fibra.

Esta fibra se destaca por su marcada acción regularizadora de la función intestinal y contribuye a prevenir el cáncer de recto y de colon. Aporta también algo de vitamina C, pero son sus hojas las más abundantes en dicha vitamina y también en betacaroteno. La cantidad de betacaroteno que el nabo posee contribuye a prevenir varios tipos de cáncer y enfermedades coronarias. En esta función colabora también la vitamina C, que ayuda asimismo a combatir las infecciones. Pero, más allá de las virtudes innegables de estas especies vegetales, ¿cuáles son las pautas de manejo a la hora de su cultivo?



El daicón (rábano) es de sabor picante pero agradable. Algunos ejemplares llegan a medir 60 cm.

El mismo rábano picante cuando se encuentra todavía enterrado. Su producción resulta absolutamente natural además de económica.

El shungiku se siembra en verano y otoño y puede ser cosechado a los 50 días. Lo apropiado es lograr una densidad de 500 plantas/$m^2$; de esta forma se podrán cortar las hojas tiernas a partir del momento en que alcancen una altura de 10 cm, como si fuera achicoria.

GOBO. El gobo se puede sembrar en otoño o primavera. En este último caso se puede hacer bajo cubierta para trasplantar al aire libre cuando son muy tiernas. La siembra de otoño debe determinarse con cuidado pues un desarrollo excesivo de las plantas hace que las mismas se suban (se induce la floración). La planta es bianual, en el primer año forma una roseta de hojas grandes y redondeadas con un pecíolo largo, en tanto que su raíz pivotante puede tener entre 60 y 120 centímetros, razón por la que necesita de suelos profundos, no franco-arenosos para un perfecto desarrollo. Las semillas necesitan entre 25 y 30° C para germinar.

El negui (cebolleta) o cebolla loca se cultiva en los alrededores de Santa Fe. Puede sembrarse en otoño y en primavera. Carece de bulbo y es perenne, por lo que es una buena opción cuando se desea contar con cebolla de verdeo durante el verano. En este caso las siembras de otoño que tienen varios macollos en primavera se dividen y se trasplantan en filas para poder arrimarle tierra y así blanquear el falso tallo. Hay una práctica usada por los japoneses que consiste en trasplantarla a una zanja para luego ir agregándole tierra y obtener un blanqueado de hasta 30 cm. Esta presentación del negui se denomina nebuka, que significa arraigado profundo.

Edamame: esta planta de cultivo estival se debe sembrar en líneas, luego de la última helada. La cosecha de chauchas inmaduras (velludas) que contienen tres porotos puede comenzar a los 70 días.

El saimoto se multiplica vegetativamente plantando un trozo de tubérculo con un brote. La cocción debe ser esmerada a fin de destruir los cristales de oxalato que contienen. Las hojas suelen usarse en sopas; en algunos países los brotes se blanquean y se comen hervidos.

El cultivo del kyuri no es diferente al del pepino común. Para lograr frutos tiernos y derechos debe hacerse en invernáculo con espaldadera y teniendo especial cuidado con el riego de manera que no le falte humedad en ningún momento, lo que modifica el crecimiento y da frutos defectuosos.

別添8.

# 日農協ニュース10号

13 de Junio

# 96'園芸生産物品評会報告

5月21日から24日にかけて、日系農業者団体連絡協議会主催による第一回園芸生産物品評会が、カステラール園芸総合試験場で開かれました。出品数は、切り花部門 55品（参考出品 9品、鉢花部門 84品（参考出品 9品）、観葉部門 26品（参考出品 5品）、野菜部門、果根菜 15品、葉菜 51品（参考出品 1品）、果樹部門 6品（参考出品 16品）がありました。当初、考えていたより多くの出品があり盛大に行われました。
入場者もＩＮＴＡの関係者が多かったとはいえ、この交通の不便な所に三日間で２３０名もの入場者があったのには、関係者一同嬉しい誤算でした。

最終日の24日授賞式が行われ、その後アサ) 領事、遊佐場長、石郷会長の閉会の挨拶、審査委員長であった安井公一専門家の、品評会の感想と今後のアルゼンチン農業へのアドバイスを含めた挨拶がおこなわれ、三日間の幕を閉じました。

品評会の結果は、次項に掲載しています。授賞された方は、本当におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

なおこの品評会の準備等に携わった方々、忙しい中、貴重な時間を提供して下さって有難うございます。又、遊佐場長をはじめとする試験場の皆様、そしてＪＩＣＡ、大使館、領事館関係の皆様御協力有難うございます。

別添9.

# 日農協ニュース11号

＊ 目次 ＊

☆ 特集「日本最大のハイテク鉢物市場」vol, 1

花卉園芸新聞より抜粋

☆ 花市場での噂ばなしから．．．

投稿

☆・第一回園芸生産物品評会の審査を終えて

・SECCION castellano

審査委員長 安井公一

☆ 花卉協同組合臨時総会

ラプラタ報知より抜粋

☆ 世界の穀物危機 ?

☆ 日農協東部理事会6月度報告

11 de Julio

# 第１回園芸生産物品評会の審査を終えて

審査委員長　安井公一

このたび日農協主催による品評会を開催致しましたところ、会員の皆様方から予想を上回る多数のご出品を頂き、盛会のうちに会を終えましたことは当事者の一人として誠にご同慶に耐えません。

品評会の審査は「野菜・果樹」と「花卉」に分けて行ないました。

このうち「花卉」は切り花、鉢もの、観葉植物の３部門とし、佐々木Marcelo氏, Roberto Fernandez氏, 森重Daniel氏に加えて、私が委員長として審査に当たりました。いま一人予定しておりましたAdalberto Di Benedeto氏は都合によりご欠席でした。

この３部門の審査は出品番号のそれぞれについて

１）花容・草姿　２）色艶　３）バランス　４）病虫害　５）商品性

の５項目に目安を於て行ないました。

それぞれの出品物について先ず各自が採点したのち集計し、受賞候補者の選考は最後に全員で協議する形としましたが、何れの出品物も生産技術の進歩を反映して甲乙の差がつけ難く、審査員一同採点には大変難渋致しました。

以下、審査に当たられた技術者の方々のご意見に、私見を交えながら感想を述べさせて頂きます。

１）まず花容・草姿ですが「生産物品評会」の趣旨に則って、個々の品物の形に加えて、出品番号ごとの品物の揃いも評価の対象にしました。

最近の大量販売方式では、園芸生産物についても規格が喧しく言われるようになり、また生産段階でも機械化が進んで生育の揃いが重視されるようになってきました。

一代交配種やメリクロン苗が多用されるようになってきたのも、一面ではこの揃いを重視した結果と言えましょう。

その意味で、今回 Gran Premio に入賞されましたパンジーは一代交配品種の特徴をよく表わして花容の揃いがよく、期せずして審査員の高い評価が集まりました。

また、切り花部門の Primero Premio を獲得されたガーベラもメリクロンの特性をよく発揮して花型が整然と揃っており、優れた出品技術と相まって全員の注目を集めました。

観葉植物は家庭で永く楽しむものだけに、軟弱に育った鉢ものは消費者の不評を買いがちです。この部門で入賞されたフィロデンドロン、シダ、ポトスは何れもしっかりした健全な生育を示しており、消費者の皆さんに安心して推奨できる品物でした。

小鉢のカランコエや、小型コニファーのゴールドクレストなど珍しいものも出品されていましたが、都市化が進んで居住空間が狭くなる一方の現代において、将来の方向を示すものとして大変興味をひきました。

草姿で気になったのは、花そのものは申し分のない咲き方をしているに拘らず、花首が伸び過ぎたり、反対に首が詰まって姿を乱している切り花が見られたことでした。

宿根草の開花が低温期までずれ込んで、暖房が無いような場合にはどうしてもロゼット状になり易く、これにわい化剤の残効でも加わると花首が短縮して姿を乱します。

作期や施設の温度管理に一工夫が欲しいところです。

２）次に色艶ですが、鉢もの部門で入賞されたポインセチアは包葉のアントシアンの美麗な赤色がとても良く発色しており、適切な温度　　管理技術が窺われました。

また、これまでカトレヤは赤紫系の花が圧倒的に優位を占めてきましたが、今回は赤花のほかに美しい薄スミレ色の花が出品されていました。

世界的な花色の好みが、どぎつい原色から軟らかなパステル調へと移って行く中で大変に興味深く見せて頂きました。アルゼンチンの人々にも、早くこの色の優美さを理解して欲しいものです。

色について気になりましたのは、光線不足が原因と思われますが、本来のきれいな色が出ていない鉢花が有ったことです。

赤や青などアントシアン系の花色は近紫外線に十分当たることによってきれいに発色し、また温室内が高温になると色の発現が妨げられます。

汚れたビニールは早めに取り替え、また天気の良い日にはこまめに換気して室内を高温にしないよう注意を払いたいものです。

3）植物体のバランスは全ての生産物に欠かすことができませんが、葉と花との釣り合いや、鉢との映りが一番問題になるのはやはりシクラメンでしょう。

今回の出品はアルゼンチンの在来系、ミニ系、一代交配種ときわめて多彩でしたが、何れも花柄がしっかりして花立ちもよく「かがり火花」の和名通りの立派なものでした。

日頃、1～2輪しか咲いていないシクラメンを見慣れた外人観衆たちも一様に感嘆して見惚れていました。

各系統のうち、アルゼンチン在来系は世界でも有数の大輪花ですが側芽の発生数が少ないので、どうしても株が立ち上がった形になり、バランスを崩しがちです。

今回の出品物の中にも鉢土が上から見えるような背高タイプのものが有りましたが、やはり最下葉が鉢縁を覆うくらいには仕上げて行きたいものです。

シクラメン生産では灌水労力が4割以上を占めると言われており、鉢の底面から紐やマットで給水する省力化が模索されてきました。

今回も底面給水で栽培されたものが出品されていましたが、手灌水に比べてもなんら見劣りせず、堅く仕上がっており立派な鉢ものでした。

この底面給水は企業的大量生産には欠かせない方式ですが、ヨーロッパや日本の高冷地と違って夏が暑いブエノスアイレスのような所で実施するためには水温上昇対策や病害対策など難しい一面も抱えています。

液肥施用も課題ですが、今後の意欲的取り組みによって是非問題解決を図って頂きたいと願っています。

4）病虫害についてみると、商品価値を損なうようなひどいものはさすがに見当たりませんでしたが、細かく注意してみるとバラやシクラメン花弁の灰色カビ病、葉に付いたウドンコ病、あるいはスリップスの食害跡などかなりの障害が目に付きました。

審査に当たって特に損をしたのは病気に弱いバラで、それぞれ切り花長も十分あって切り前も良く、素晴らしい品であっただけに病虫害の項目で大きく減点されたのは残念としか言いようがありません。

病虫害のほかに、鉢の外側が泥で汚れたものや、あるいは鉢の中に雑草の生えたものが小数ですが目につきました。

日本の諺に「売り物には紅を注せ」というのがありますが、販売や出品に当たっては忙しくても最後の仕上げのお化粧を忘れないようにしましょう。

5）商品性は全ての生産物に共通した問題ですが、花という商品は生活必需品でないので衝動買いの性格が強く、高く売るためには「アッ！きれい・・ Que Lindo！」と人目を引きつけることが先ず一番です。

いくら優れた品種でも、永年に亘って出荷を続けていると商人やお客に飽きられてしまい、そこへ目新しいものが出現するとまたパッと飛びつくという事を繰り返して来ました。

この点、他の食糧作物などと異なる花卉の宿命とでも言えましょう。

今回もバラ、カーネーション、ポインセチア、シクラメン、カランコエなど多岐に亘って新品種の導入が見られ、会員皆さんの意欲的な姿勢を窺うことができました。

また、目新しいものとして抑制栽培の宿根アスターが出品されており、切り花部門で入賞されました。生産が始まって間がないため開花調節にも未解決の問題が多かろうと思いますが今後の研究を期待しています。

ただ、これからの新品種導入には「国際植物新品種保護条約」が大きく立ちはだかってきます。新品種を育成した人の権利を保護すると言う世界的な流れの中で、アルゼンチンだけが何時までも蚊帳の外に居ると言う訳には参りません。

権利を得るためには当然代価を必要としますが、知的所有権を尊重すると言う高い見識を持って、これからも取り組んで行きたいものです。

また他に、新しいものとしてセル成型苗が出品されていましたが一番難しい発芽もよく揃っており、少し日数を過ぎたトレイがあったものの、技術的に優れた製品でした。

これからの育苗労力節減の方向を示すものとして啓発効果が大変に大きく、有意義な出品であったと感謝しております。

以上思いつくままに審査の感想を述べましたが、小さいながらも全般を通じて「生産物の展示を通じてお互いの技術向上を図る」と云う所期の目的が達成できた大変立派な品評会ではなかったかと喜んでおります。会の運営も会員の息の合った協力によって最後まで順調に進み、好評のうちに全日程を終了したことは慶賀にたえません。

多くの Exposicion が商業主義に流されて行く中にあって、このような形の品評会が永く続くよう切に希望致します。

## 14. EXPOSICION FLORI-FRUTI-HORTICOLA
## INFORME DEL JURADO DE CLASIFICACION

Presidente del Jurado: Dr. YASUI. Keichi

Con la organización del Consejo de Agricultores Nikkei tuvo lugar la Exposición, que gracias a la gran expectativa aportada por sus miembros conto con un gran numero de lotes en exposición; por lo que no puedo mas que compartir la alegría como uno mas de Ustedes por el éxito de la misma.

La Exposición se dividió en 2 grandes categorias en cuanto a la actuación del Jurado: "Hortalizas-Frutales" y "Florales".

Dentro de la categoria de "Florales" se dividió a su vez en 3 grupos: flor de corte, florales en maceta y plantas de interior; actuando en el Jurado el Ing.Agr.Marcelo Sasaki, Ing. Agr. Roberto Fernandez (INTA-La Plata), Ing.Agr.Daniel Morisigue y yo como presidente del mismo. Estaba invitado tambien el Ing.Agr. Adalberto Di Benedetto (Univ.de Bs.As.) que no pudo concurrir.

Cada lote expuesto de estos 3 grupos fueron calificados de acuerdo a:

1) forma de la flor-forma de la planta, 2) color, 3) balance, 4) sanidad y 5) valor comercial.

A cada lote se le adjudico un puntaje en cada uno de los 5 rubros calificados, sacandose la suma total para cada lote, determinandose al final en forma conjunta con los miembros del jurado los candidatos a los premios; pero debido a la gran calidad de las plantas expuestas que reflejaban los adelantos que esta ocurriendo en el sector, se hizo muy dificil determinar los premios.

Es asi que recogiendo tambien la opinión de los demás miembros del Jurado, paso a resumir las conclusiones.

1) Forma de la flor - Forma de la planta: teniendo presente que esta Exposición tuvo como objetivo exponer mercaderia en producción, no solo se evaluó la forma de cada planta sino también la uniformidad de los lotes expuestos.

Ultimamente con la difusión de la producción en gran escala, la estandarización de la producción se hace necesario; como tambien la mecanización de muchos cultivos esta llevando a que la produccion sea cada vez mas uniforme.

El uso de híbridos y plantas de meristema tambien es cada vez mayor, siendo uno de los factores que tambien ayudan a la uniformidad de la producción.

Por lo antedicho, el GRAN PREMIO de esta Exposición correspondió a una variedad híbrida de pensamiento que manifestaba todas las características que corresponden a un híbrido, como la uniformidad en la forma de la flor; es asi que sin proponerselo los miembros del jurado coincidieron en darle el mayor puntaje.

Tambien en el grupo de flor de corte, el PRIMER PREMIO lo obtuvo una variedad de gerbera de meristema, que manifestaba plenamente la uniformidad en la forma de la flor que caracteriza a las plantas que provienen de esta forma de multiplicación, acompanada ademas por una excelente presentación para la venta.

En cuanto a las plantas de interior, que se caracteriza por ser una planta que debe perdurar por largo tiempo en una casa, si las condiciones de cultivo llevan a una planta débil, se corre el riesgo de una mala reputación por parte del cliente. Dentro de los lotes que se presentaron en la Exposición, como philodendron, helecho, potus se observaron plantas de muy buena calidad, por lo que el cliente se puede quedar tranquilo.

Tambien hubo plantas que fueron novedad, como kalanchoe en maceta chicas, coníferas enanas tipo Golden Crest; y teniendo en cuenta que el avance de la urbanización esta llevando a que queden pocos espacios libres, este tipo de plantas se impondrán en el futuro.

En cuanto a la forma de la planta o vara floral, la flor en si era de una buena calidad , pero el cuello de la flor o era demasiado largo o demasiado corto, perjudicando el aspecto de la vara en si.

En las especies plurianuales, para hacer florecer en época de bajas temperaturas se hace necesario calefaccionar para que no entre en roseta; pero si a esto se le agrega el uso de enanizantes se logra un excesivo acortamiento del cuello desmejorando la calidad.

De acuerdo a lo anterior, lo deseable seria que se pudiera controlar la temperatura del invernáculo para lograr una correcta programación del cultivo.

2). color: en el grupo de plantas en maceta, las poinsetias presentaban una pigmentación de la antociana en las hojas petaloides (brácteas) excelentes, que demostraban haber sido cultivadas en condiciones óptimas de temperatura y fotoperíodo.

En cuanto a la catleya, hasta ahora se caracterizaba por la supremacia del color bordó, aunque en esta ocasión tambien hubo variedades de color violeta claro.

En el mundo, en cuanto a la tendencia del color, se ha pasado de la predilección de un color fuerte, llamativo,a un color suave, tipo pastel. Sería deseable que tambien, el consumidor argentino comience a valorar la elegancia que da este tipo de colores.

Una de las críticas que se pudo observar en cuanto al color, es que hubo plantas que no pudieron manifestar su colorido por problemas de insuficiencia lumínica en el cultivo.

Colores como el rojo y azul, del grupo de las antocianas, en función de la exposición a la radiación del violeta cercano, variará su manifestacion; además si hay problemas de alta temperatura dentro del invernáculo, afectara la pigmentación.

Por lo que lo ideal sería cambiar el polietileno cuando esta muy sucio; además en los dias despejados, aunque sea laborioso ventilar bien para evitar problemas de alta temperatura dentro de los invernáculo.

3). Balance de la planta: en cuanto a este tema, tal vez el cyclamen sea la especie mas problemática, tanto en el equilibrio de las hojas con las flores como el balance entre la planta y la maceta.

En esta ocasión se pudo apreciar el tipo argentino, mini y los híbridos; en todos el aspecto que presentaba la floración fue buena, como dicen los japoneses "kagari bibana" que es algo asi como la llama del fuego, de esa forma se veía la floración.

Incluso, mucho público que se acercó a la Exposición y que estaban acostumbrados a ver cyclamen con 1-2 flores, se fueron admirados.

En cuanto a las variedades, el tipo argentino es uno de los mejores en el mundo dentro de las de flor grande; pero la insuficiente brotación lateral, hace que el balance planta-flor no sea bueno.

En esta ocasion todavia se pudo observar que se ve el sustrato, o sea que las hojas no cubren el borde de la maceta, que sería lo deseable.

Se dice que en el cultivo de cyclamen, mas del 40% de las labores es para el riego, como una forma de ahorrar tiempo, se ha comenzado a regar por subirrigación, tanto por hilo o por manto.

En esta ocasión, también se pudo observar cyclamen cultivado por subirrigación, que comparado con el riego manual presentaban una calidad equivalente, con una planta bien endurecida y resistente.

Este tipo de riego por subirrigación, es una de claves en el cultivo a gran escala, pero a diferencia de Europa o Japón, zonas frescas; en la zona de Buenos Aires con un verano de muy altas temperaturas, se hace necesario controlar la temperatura del agua y el tema sanitario antes de implantar este sistema.

El fertirriego también es un problema, en este aspecto anhelamos poder ir encontrando las soluciones al mismo.

4). Sanidad: en general, no hubo lotes que presentaran un aspecto sanitario malo como para quedar excluido de una estandar comercial; pero al observar con mas detalle se pudo observar problemas de botrytis en pétalos de rosa y cyclamen, oídio en hojas y daños provocados por trips.

En cuanto a la calificación del jurado, lo que mas perjudicó la puntuacion de las rosas, fue el tema sanitario, a pesar de tener un buen largo de tallo y buena calidad en general.

Ademas del tema sanitario, queda por resaltar en algunos pocos lotes la suciedad presente en la parte externa de las macetas, como tambien la presencia de yuyos en algunos sustratos.

En Japón hay un dicho que dice "urimononiwa beniwosase", esto quiere decir que hay que adornar a lo que se va a vender; o sea tanto a las cosas para vender como para presen-

tar en una exposicion seria deseable que se lo "maquille" para hacerlo mas presentable.

5). Valor comercial: en cuanto a este tema, el problema común a todas las especies es que no se trata de un articulo de primera necesidad, por lo que es fuerte el efecto de la compra compulsiva y para vender a buen precio hay que provocar en la gente la impresión de " !!Ah, que lindo!! " .

Por mas bueno y lindo que sea un producto, llega un momento que el consumidor se cansa del mismo, ahi hay que sacar un producto nuevo para renovar la actitud y es asi que ha venido sucediendo.

Este es el destino de la flor, a diferencia de los productos comestibles.

En esta ocasión tuve ocasion de "espiar" ,tanto en rosa como clavel, poinsetia, cyclamen, kalanchoe, la introduccion de nuevas variedades, como reflejo de una actitud hacia ese sentido antes comentado.

Además, se pudo observar como novedad el aster forzado, que mereció un premio en el grupo de flor de corte. Es una especie que se ha comenzado a cultivar, con muchos problemas para su manejo, pero con mucha expectativa con respecto a las proximas investigaciones.

Pero, desde ahora la introducción de nuevas variedades traera aparejado el problema de las patentes. El pago de derechos a los mejoradores es algo que ya ocurre a nivel mundial, y la Argentina no puede ignorar esta circunstancia indefinidamente.

Es por ello, que es deseable que desde ahora la introduccion de nuevas variedades sea con el reconocimeinto al derecho de la propiedad intelectual.

Por otro lado, como novedad de esta Exposición, se pudo apreciar plantines de plug, con una buena germinación, algo pasadas de fecha; pero técnicamente algo digno de destacar.

Desde ahora, esta sera una técnica para disminuir la labor de plantín, y creo que ha servido como una muestra de la tendencia a partir de ahora, por lo cual estoy agradecido.

Esto ha sido un poco el resumen de la actuación del jurado, habra sido chico la Exposición, pero en general creo que se alcanzo el objetivo de mostrar productos que ayuden a mejorar el nivel tecnico del sector, por lo cual me siento muy contento. Es de destacar la labor desarrollada por los miembros del Consejo que ayudaron a que la misma tuviera el desarrollo esperado.

Espero que haya muchas exposiciones mas, con su reflejo en el aspecto comercial; y que este tipo de eventos continue por mucho tiempo, es mi anhelo.

Dr.Koichi YASUI
Trad.Ing.Agr.Daniel Morisigue
CETEFFHO-JICA

別添10.

ISSN 0328-4247

# Super CAMPO

DE LA HUERTA A LA ESTANCIA

Año IX Nº 22 - Julio de 1996 - Argentina $ 6 - Uruguay $ 3 - Paraguay Gs. 10.000

## LA ADECUADA NUTRICION INVERNAL EN EL TAMBO

## LAS NUEVAS FRONTERAS DE LA GANADERIA DE CARNE

## ARROZ, CLAVES EN LA SIEMBRA DIRECTA

PERFIL

INFORME ESPECIAL

## INVERSION EN TIERRAS EN LA ARGENTINA

TECNOLOGIA

## POSICIONAMIENTO SATELITAL, LA AGRICULTURA DEL FUTURO YA LLEGO

CALIDAD TOTAL

## POSCOSECHA DE BATATA Y LIMON

Mundo Lacteo

ADHESION DE LA INDUSTRIA LACTEA A NUESTRO PROYECTO

## Crecen las comidas rápidas

Los cambios en los hábitos alimentarios de la población, sobre todo en lo que se refiere al consumo fuera del hogar, se traduce en el crecimiento de las cadenas de Fast Food en todos los países del Cono Sur. Así, tomando los casos de la Argentina, Br , Uruguay y Chile, la firma mejor posicionada con 268 locales durante el año 1995 proyecta llegar a 336 a fines de este año, a 439 en 1997, 564 en 1998, 692 en 1999 y a 824 en el año 2000. Esto significará una mayor demanda de carne vacuna para hamburguesas. Se estima que las 10.400 toneladas consumidas durante el año pasado —siempre en los cuatro países mencionados— representarán tan sólo la tercera parte de la cantidad que se demandará en el 2000, que superará largamente las 32.000 toneladas. Así, esta tendencia demuestra a las claras que cada vez son más los que prefieren las comidas rápidas y sigue creciendo.

## Agricultores Competitivos

El Consejo de Agricultura Nikkei (de origen japonés), con el apoyo de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA), realizó su Primera Exposición Flori-Fruti-Hortícola en las instalaciones del Centro Tecnológico que JICA posee dentro del Complejo de Investigaciones del INTA, en Hurlingham.

Realizada por iniciativa de los propios productores, la muestra tuvo como objetivo incentivar al mejoramiento en la calidad y la presentación de los productos. Durante la muestra se desenvolvió un jurado que evaluó las presentaciones y determinó el destino de los premios. Se definieron ganadores en flores de corte, maceta, plantas de interior, frutas, hortalizas de hoja, fruto y raíz. En todas las especies tanto como en las variedades se pudieron apreciar ejemplares que demostraron estar en condiciones de competir al más alto nivel.

## El INDEC difunde sus números

El Instituto Nacional de Estadísticas y Censos reanudó la difusión de precios y cantidades de las exportaciones e importaciones (desagregados por los principales rubros) y del índice de términos del intercambio y las ganancias o pérdidas derivadas de la evo! ón de dichos precios. Estos permiten analizar los flujos de comercio exterior y sus impactos sobre la economía del país. En el gráfico puede compararse la variación de los precios de exportación de distintos productos.

| Base 1993 = 100% | 1994 | 1995 |
|---|---|---|
| Producto | | |
| Cereales | 107,1 | 113,1 |
| Oleaginosas | 108,6 | 97,7 |
| Carnes | 90,7 | 95,8 |
| Grasas y aceites | 129,1 | 135,0 |
| Lanas elaboradas | 110,6 | 145,2 |

FUENTE INDEC

## Cursos & Seminarios

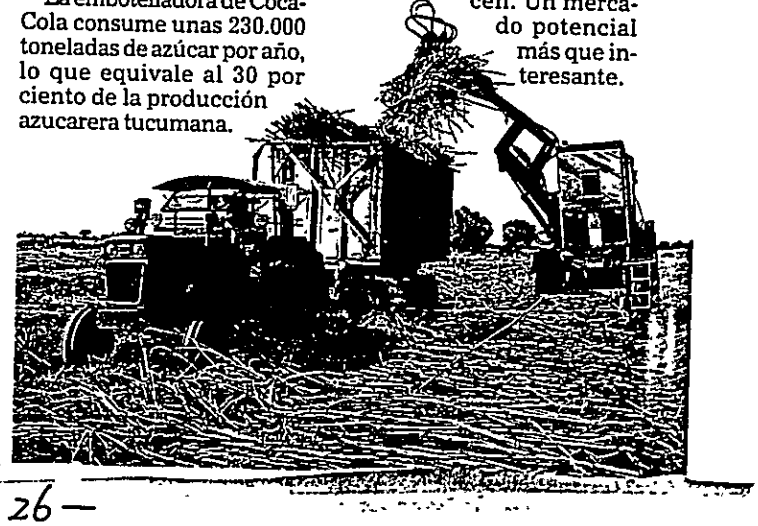
- **Vinos. Curso sobre Conocimiento Integral, en el Centro Cultural del Vino. Informes: Asociación Vitivinícola Argentina, Güemes 4464, Capital. Telefax: 776-2529.**
- **Agroempresa europea. Seminario sobre Agroempresa y la Industria Alimentaria en Europa, en Tünsdof, República Federal de Alemania. Se realizará desde el 17 de agosto al 1 de setiembre de este año, auspiciado por la Sociedad Argentino-Alemana. Para pedir informes dirigirse al Tel.: 832-2479.**

## Mejoras para el azúcar

En la provincia de Tucumán se vislumbran beneficios luego de la rebaja de los impuestos internos a las bebidas cola. Esta ventaja se orienta a las mayores ventas de azúcar, producto clave de la economía provincial.

La embotelladora de Coca-Cola consume unas 230.000 toneladas de azúcar por año, lo que equivale al 30 por ciento de la producción azucarera tucumana.

En 1995 se compraron 15.000 toneladas de azúcar y los pronósticos indican que en 1996 se comprarán 50.000 toneladas de un azúcar especial, ultrarrefinada, que algunos ingenios tucumanos producen. Un mercado potencial más que interesante.



## Bayer en Mercoflor

Durante la muestra internacional de jardinería y floricultura que se realizó en el Predio Ferial de Palermo, la empresa Bayer Argentina presentó una nueva y variada línea de productos destinados al jardín.

Los asistentes a Mercoflor recibieron asesoramiento general en forma personalizada a través de una nueva herramienta, el Manual Bayer de Soluciones a los Problemas del Jardín; un programa para PC con información sobre fitosanitarios.

Bayer

別添11.

# エスコバール「花祭り」

## 再興狙う生産者たち
## 多彩な会場と催し物

〈再興の根っこにかえって〉のスローガンをかかげてエスコバール第三十四回「全国花祭り」が九月二十七日（イナウグラシオン）より十月十三日まで開催されるが、その旗揚げ式が六日正午より、花祭り会場レストランのサロンで百名余の国内国外の報道関係者を招いて盛大に行われた。主催者側より久木テルモ花祭り協会長、ルイス・パーティ市長、協会理事、昨年の花の女王、蕾の女王、各協賛団体代表、民俗衣裳をつけた少女たちが参加、久木会長、パティ市長の挨拶があり、そのあと昼餐会、新しい観光地としてスポットを当てるエスコバール沿いのパラナー河遊覧が行われた。

何よりも今年は、花の生産者でもある日系二世を花祭りの実行・運営のトップに登場させて市当局が全面的にバックアップし、「花の首都」としてマンネリに陥っていた花祭りの再興と、花卉産物おこしの積極的な意気込みが感じられる。これはアルゼンチン経済の自由化によって花卉栽培技術や輸入花の導入、販売面に大きな変化が生じたことも関連しているようだ。お客さん（消費者）の購買欲をほり起こしながら、外国産に劣らない国産花卉類があることを示し、さらにメルコスール（南米市場）にまで視野をひろげようと試みるスケールの大きな多彩な催し物。

### お客さん中心に

具体的には、すばらしい、エキゾチックで新しい観葉植物と花で調和させた第一パベジオン（大型展示場）、観葉植物と花々で飾る四メートルの滝を中心にすえた、これまでにない最高のフラワー・センターにした第二パベジオン、いくつかの滝の間に設けられるスタンドに、メルコスール参加国から出品されたものを含めてたくさんの花、観葉植物、盛り花、造園などが見られる第三パベジオン、花、観葉植物、苗木などを取揃えた販売コーナーの第四パベジオンなど主な設計、指導は猪又康夫造園技師が担当した。

### ショピング風に

観葉植物、花のスタンドは初めてショッピング風にして、値段も不況時代のお客さんのフトコロ工合に合わせるなど、消費者の便宜を中心にした売り込みやサービスを心がけ、昨年までと違って会場全域自由に出入りして動けるようになっている。レストランや食べ物関係のスタンドは斯界一流の業者に委託、割安な値段とゆきとどいたサービスを目指している。

### 花山車・女王選出

二十九後（日）十八時より、五才の子供を対象にした蕾の女王候補者十八名を乗せたミニ花山車（だし）のパレードが会場内の池の周辺で行われ、十九時半からパジャーソ、足長オジさんが余興に参加しながら女王選出。

十月五日（土）十九時より、花の女王候補十五名を乗せた一般、学生部門参加の花山車のパレードが市内目抜き通りで行われ、二十一時より女王選出。これは、第一部は大型スクリーンを利用して、エスコバール最初の入植者の到着から花の栽培地としての発展ぶり、花祭り協会の発足、現在までの歩みをスライドで放映。第二部は女王選出で、セレモーニアには、メンドーサぶどう祭の女王、バリローチェの雪の女王、マルデルプラタの海の女王のほか、各地の女王が招待される。

### 交通機関

期間中、土・日曜日にはタンゴ、フォルクローレ、ジャズなど歌、踊りのアトラクション、子供向けの遊戯センター、ミニ鉄道も設けられている。入場料は五ペソ（フビラードは月～金は二、五〇ペソ）で、観覧時間は、月～木＝九時～二〇時、金・日＝九時～二十一時、土＝九時～二十二時。敷地内に例年より広い駐車場が用意され（三ペソ）、警察官、民間警備員が交通整理に当たる。

交通機関としてエスコバール行くには、市内のコンスティトゥシオン駅前出発のバス六〇番、プラサ・オンセ公園前始発のバス・チェバリエル、プエンテ・サベードラより二二八番のバス、レティロ駅始発の汽車を利用することが出来る。

なお、この花祭りには、切花、鉢物の品評会も行われる。

# 日農協定期総会

## 石郷嘉正会長ほか六幹部、留任

日系農業者団体協議会の定期総会が四日（木）午後三時より、亜拓会議室でひらかれ、十七名が出席した。

まず石郷嘉正会長の挨拶、つづいて石郷会長を議長に推薦、議事録署名者に黒田ヨシアキ、山本カルロス両氏を選出、会務・会計報告が猪狩フェルナンド副幹事、佐々木アレハンドロ会計よりそれぞれ行われ、承認。

役員選挙では、各グループより推薦された次の候補者リスタが承認された。

佐藤功（ウルキーサ果樹）、猪狩フェルナンド（アルマフェルテ）、伏見アルベルト（ブルサーコ鉢物）、志村正敏（フロール・デル・ソル）、高橋靖宏（ロス・デル・スル）、山之内征治（ラン研）、玉置昭雄（北部鉢物）、石郷嘉正（エスコローサ）、根路銘フアン（シクラメン）、柏木光男（マルコスパス）、比嘉盛繁（野菜研究会）、栄平三（バラデーロ果樹）、西村ヒデトシ（ウルキーサ・バラ研）（コマウエ農業研究会は、協議会で畜類上サインの必要性が生じた場合、遠隔地のため困難が予定されいるので理事より外す。ただし、協議会での発言権は他の理事と同じ）。

なお、日本側の研修生受入れ機関であるJATAK（全国拓植農業共同組合連合会）の説明会が七日十六時より、亜拓会議室で行われた。昨年のJATAK研修生の報告会もその日催された。安井先生を中心にした研究会の報告会も近日行われるが、日時未定。

総会修了後、六幹部互選会に移る。将来二世へのバトンタッチを考え、極力二世を加えたメンバーづくり、という点で皆賛成したが、会長選出では推薦された人がそれぞれ都合で辞退して難航。今期の副会長が来年の会長に就任する条件で石郷会長の留任を決め、結果的に六幹部は次のように昨年と同じ顔触れ。

会長＝石郷嘉正、副＝玉置昭雄、幹事＝高橋靖宏、副＝猪狩フェルナンド、会計＝佐々木アレハンドロ、副＝柏木光男、監査＝栄平三、副＝山之内征治。

本年度第一回理事会は来る十二日（木）十四時より。

「日農協ニュース」13号が配布された。とくに〈エスコローサ・イ・プランタ研究会〉の紹介と、作品別の寸評など、五十嵐一哲ボランティア取材記事がある。

# 名桜大学一行

## 十二名十二日着亜
## ―交流会と歓迎会―

既報、沖縄県名護市為又に

別添12.

# 日農協理事会
## 第二回園芸生産物品評会
### 10月25日より日会サロンで

日系農業者団体協議会の定例理事会が十二日（木）午後三時より、亜拓会議室でひらかれた。

石郷嘉正会長を議長ににして主な報告、決議は次の通り。

▼会務会計報告ＪＡ拓（全国拓殖農業協同連合会）研修生の申し込み締め切りは十月十一日、年齢制限は十八才～三十才◎エスコバール花祭りの品評会には、個人の資格で自由参加。

▼会計報告　九月現在で五二〇〇、〇五ペソ、六四〇〇ドル。

▼第二回品評会　十月二十五日より二十七日まで、在亜日本人会サロンで行う。出品物は全て日農協に寄贈し、最終日に即売、品評会の費用に当てる。二十五日（金）、出品物の搬入、展示準備、審査を行う。一般観覧（入場無料）は二十六日（土）十時～二十時、二十七日（日）十～十四時、表彰式十四時～十五時、十五時より即売。審査には委員長＝安井公一ＪＩＣＡ派遣農業専門家、花卉部門＝リハラール農業技師（花卉協同組合）、Ｒ・フェルナンデス農業技師（ＩＮＴＡ）、佐々木マルセロ農業技師、野菜部門＝仲間マルティン農業技師（ＪＩＣＡ）、進士エドワルド農業技師、その他ＩＮＴＡの専門家。宣伝広告ポスターを花市場、花関係者の集まる場所に張る。応募・出品要領条件は前回と同じ。

▼入会と退会　新入会員としてマルコスバス花卉研の七海正之、木下里美を承認。ウルキーサ菊研、人数少数のため解散。現在会員総数一六一名。

最後にＪＡ拓研修を終えた新垣ファビアン氏（野菜研）より、次のような研修報告があった。

熊本県益城、埼玉県東松山で野菜、とくにキュウリ（温室栽培）について研修。日本語は、少しはできる積もりだったが、初めはそれ程役に立たなかった。仕事の内容はペオンと同じで、つねにグループで作業、ブラジルの研修生と一緒だった。研修生は好遇してくれたし、辛抱強く教えてくれた。日曜日は休み、土曜日は一ヵ月に一度休み。食事は受入先の家族と一緒に、休みの日は自給。月に八万円の手当が支給された。一年に四回、ＪＡ拓の人との懇談会があり、四日間三宅島観光があった。研修期間が短かったら中途半端なものに終っただろうが、一年間みっちりやったので収穫があった。土壌とか品質を良くすること、商品として出す場合に、包装、体裁に気をつけること、一番のプラスは、考えてものを見るようになったこと。

# 名桜大学学生一行歓迎会
## 若いリズムで交歓
### 元留学生・研修生もまじり

既報、沖縄名護市にある名桜大学学生一行七十八名の歓迎会が沖県連主催で十二日（木）夜、同会館ホールで行われたが、各市町村人会関係者、有志、日亜学院やセントロ日系代表、元留学生、研修生など多数が参加、立食パーティー形式で賑やかな交歓風景がくりひろげられた。

学生七十三名と安井祐一教授、住江淳司助教授、知念一郎講師、王城四郎・事務局員は九月四日、南米三か国の姉妹大学との親善交流の縄を出発、まずブラジル日間滞在した。その間ナー州のロンドリーナ合大学で二日間にわたブラジル・ポルトガル徴、ブラジルの現代史ニバル祭、文化と移住州立大学の沿革などの受けた。そのほか、午る沖縄県人会の歓迎会席。

同大学が目指して国際社会で活躍できる育成で、七〇％が県系と三〇％が他府県系。学問でなく、理論と実ランスを重視し、実実習を通して履修科目がとれる仕組みになとのこと。現地での生の内容は語学研究だけく、地域研究も組みの地の地理、歴史、流を絡して学び、そスにして国際社会ですい摩擦の解消に役とを狙っている。

東南アジア地域とスポットが当てられラテンアメリカ地域コースのうち、学生二がラテンアメリカ択しようという。三て計画に移したが、一

# 沖県連定例理事会
## 県費留学生研修生候補決まる
### うるま園入場規制、11月から

沖県連の九月定例理事会が九日（月）夜、同会食堂でひらかれたが、主な報告、決議事項は次の通り。

▼会務・会計報告　八月十七日、本年度の県費留学生、研修生の選考が行われ、次のような結果をえた。芸術大学＝第一候補・伊波エレーナ、第二・山城パオラ、第三・親泊パブロ。琉球大学＝第一・上間アンドレア、第二・中山アンドレア、第三・安座間ノエミ。技術研修生＝第一・勝連エステーラ、第二・前当ロミーナ、第三・大城ヘルマン

▼運営報告　◎二月から七月までの赤字三万七〇〇〇ドル◎防音装置　会館ホール防音装置について専門家の見積りは一八〇平方米で一万一五〇〇ペソ。内供で工事をすすめる。

▼会員・非会員のうるま園入場規制、及び会員証の発行　うるま園の入場料は会員無料、非会員は二ペソ、駐車料は会員・非会員いずれも三ペソを、十一月十一日より徴収を実施する。会員で会員証を持っていない人は、うるま園でカルネー作製機で作る。

▼市町村対抗体育大会　十一月三日に開催。参加市町村人会の主将会議を九月十六日に行った。

なお、うるま園プール建設資金捻出のリーファが各市町村人会にこの日配布された。

# NHKT
## 亜国で
### 西語

日本とアルゼンチ初めてTV番組の まった。これはTV ＬＩＴＹが毎日送 ケーブルの教育倍 （ＥＵＣＡＢＬＥ） と日本文化の普及保 ある（国際交流基金 調印された協定に ＮＨＫの亜翌ＴＶ番 でも見られるように

スペイン語による ＨＫとＪＡＭＣＯ（ コミ　センター）が ＤＵＣＡＢＬＥ）に ことになっており、 二十三日から始まっ

# 日農協議会

## 品評会、26日より在亜日会で

## 27日午後、即売会も

日系農業者団体協議会の定例理事会が十日（木）午後三時より、亜拓会議室でひらかれた。

石郷嘉正会長を議長にしてすすめられたが、主な報告、決定事項は次の通り。

▼会務会計報告　日農協が申請していたブラジルからの農業専門家派遣は次のように決まった。キモト・トシアキ農業技師、十一月四日より十二日まで、中川ジュリオ農業技師、十一月十八日より二十六日まで黒沢農業技師、十二月二日より十一日まで。

▼会計報告　九月末現在で四九五一、九六ペソ、六四〇〇ドル。

▼会長報告　●中堅研修の黒田ヨシアキ、九月三〇日に出発。小池エルネスト、松原ウーゴ、十一月四日出発予定●来年度より〈中堅研修制度〉は、〈個別短期研修制度〉となる。内容は従来通りだが、年齢制限は二〇オより六〇オまで。この申し込み締め切りは十月末日●補欠理事の任期は理事と同じように二年制であることが定款に明記されている。監査は一年制。

▼新入会員　畑中フーリオ（ウルキーサ・バラ研究会）の入会が承認された。

▼品評会　第二回品評会を予定通り来る二十五日（金）より二十七日（日）まで在亜日本人会サロンで行うが、今回は、在亜日本人会が後援という形で支援する。二十五日（金）、各部署担当者は朝十時集合。出品物の搬入、受け付けは十三時まで。審査開始十四時。一般観覧（入場無料）は二十六日（土）十時より二十時まで、二十七日（日）十時より十四時まで。表彰式十四時より、即売（切花、鉢物、野菜、果実など）は十五時より。収益は品評会の支出の補充に当てる。持回り領事杯の授賞対象を毎回部門別に回転させる。第一回は鉢物が対象になったので、今回は切花部門より選出する。

# メルコスール目指し

## 日本、漸く動き始める

### サンパウロで四伯間会議

先月二十六日から二十九日にかけて行われた小倉和夫外務審議官の訪亜は日本の「メルコスール」（南米共同市場）への関心を示すものと受け取られているが、その通り、南米七ヶ国の大使が出席するメルコスール大使会議を初め、官民合同会議、高級事務レベル協議など、メルコスールに対する日本側の初のアプローチといえる関係会議が先月三十日の日伯二ヶ国間政策対話を初日に四日間の日程でサンパウロにおいて開催された。

韓国の金泳三大統領の初の南米歴訪と対南米大規模投資、中国との経済交流拡大などアジア諸国の南米への接近が急ピッチで進んでいる時だけに、このメルコスール関係会議は南米に対しては出遅れの感があった日本政府が中韓に負けてはならじと漸く重い腰を上げたという印象を与えている。

メルコスール関係会議は先月三十日の日伯二ヶ国間政策対話を皮切りに、今月一日の日本・メルコスール高級事務レベル協議、二日のメルコスール大使会議、三日のメルコスール官民合同会議の順で進められ小倉和夫外務審議官、堀村隆彦中南米局審議官、大森中南米第一課研究調査員、塚田駐伯大使、荒船駐亜大使、角田駐ウルグアイ大使、青木駐ペルー大使、佐々木駐パラグアイ大使、堅山駐ボリビア大使、杉野駐チリ大使外、田中サンパウロ駐在総領事、伊藤リオデジャネイロ駐在総領事、水谷駐伯公使並びに伯国、亜国、ペルー三国における国際協力事業団代表並びにJETRO代表、輸出入銀行、その他多数の民間進出大手企業社長が出席した。中心議題は日本・メルコスール経済関係。

# 文野トラベル社主催

## 〈太公望〉の腕は如何に

## 日亜ペヘレイ協会が後援に

恒例の「釣り大会」として日系社会に定着した文野トラベル社主催の「釣り大会」も今回で第六回目を迎えることになった。来る十一月十七日（日）午前十時から大西洋沿岸の避暑地であるサンタ・テレシータでの開催である。

釣りキチをして〈太公望〉日系人には多いが、こうしたエベントも第六回目となると、釣りキチ達も待ちに待った喜びで人気を呼んでいる。更に家族揃って一日を楽しめるのも魅力となって、一家揃っての参加者も増えている。

チビッ子達の参加も目立っているが、大人も顔負けのサオ捌きは見事なものである。この〈太公望〉の腕の見せどころだが、内心では豪華賞品を釣り上げようという魂胆。これも挑戦の醍醐味で素晴しいことである。

今回の「釣り大会」に日亜ペヘレイ協会が後援とあって、魚がとりもつ縁で一段と大会に熱が加わったが、日系社会の中にこうした企画も必要であることを示した文野トラベル社の「釣り大会」の盛況になうなずけるものがある。

文野トラベル社長も「太公望の奮戦に期待するが、またお互いの親睦交流にも役立てば喜ばしい。皆さんの参加を心待ちしています。頑張って下さい」と述べている。

締め切りは十一月四日迄。参加料金が六十ペソ。賞品＝一位＝日本往復航空券＝一枚。二位＝チリ往復航空券＝一枚。三位＝モンテビデオ往復航空券＝一枚、の外に豪華賞品の多いのも文野トラベル社ならではの定評がある。

# 小原流「生け花」展

## マルデルプラタ市で

小原流「生け花」亜国支部（辻早苗市部長）では今月十

# 〈踊り〉で語る

## タンゴダンスの歴史

### 古瀬陽子さんがモダンと共演

日本女性タンゴ　ダンサーとして売り出してきている古瀬陽子さんが今月二十七日（日）十九時からテアトロ　インデペンディエンテ　イ　セントロ　クルトゥラール〈エル　キホーテ〉（アベニーダ　インデペンデンシア四〇五三番）でモダンダンスと共演する。

これは二部より成り一部がモダン　ダンス、二部がタンゴ　ダンスで一部はエスクエラ　デ　ダンサ　フベニールの子供たち多数が出演、惑星に扮して踊っているところへタンゲーロが降り立ち惑星の子供たちと踊り交流をするという筋書きでモダン　ダンス

# 日農協第二回品評会

## 品質・出荷技術に向上
## 即売で消費者の反響、身近に

日系農業者団体協議会の第二回品評会が先月二十五日より二十七日まで、在亜日本人会会館ホールでひらかれたが、総合大賞（持ち回り領事杯）を今西淳二氏（クラベル）、JICA園芸総合試験場長杯（持回り）を玉置昭雄氏（ポインセチア）、東江エクトル氏（根菜類）が獲得した。

同品評会の最終日、浅野敏雄夫妻、遊佐健輔試験場長が出席して授賞式が行われたが、各部門の受賞者は次の通り。

▼切花 ◎クラベル ①総合大賞今西淳二②今西淳二③菅原セルヒオ ◎バラ①畑中フーリオ②畑中フーリオ③加瀬ガブリエル ◎その他①杉本朗（ガーベラ）③今西淳二（スターチス）③高橋靖宏（ジプソフィーラ）。

▼鉢花 ◎花壇花①小池エルネスト（ベトゥーニア）②名城マルティン（ベルベーナ）③小池エルネスト（アヘタート）◎鉢花①園芸総合試験場長杯・玉置昭雄（ポインセチア）②長内範昌（セントポーリア）③長内範昌（スパティフィリウム）。

▼観葉①神末宗一（アフェランドラ）②荒木エドワルド（トラディスガンチア）③赤嶺ヒロミツ（シスス）

▼野菜 ◎根菜類①園芸総合試験場長杯・東江エクトル（チャウチャ）②佐藤功（大根）③具志堅ルイス（チャウチャ）◎葉菜類①佐藤功（アピオ）②佐々木アレハンドロ（レポージョ）③佐藤功（ネギ）。

審査には安井公一（委員長・JICA派遣農業専門家）、佐々木マルセロ、R・フェルナンド、C・リハールの各農業技師（以上・花卉部門）、仲間マルティン、進士エドワルド、新垣フーリオ、A・ボイ、L・バルカーサの各農業技師（以上・野菜部門）が当った。

安井審査委員長談 ◎クラベル 茎のしっかりしたものが出てきた◎バラ 葉の汚れがなくなり、高品質のものが揃った◎ガーベラ ヨーロッパ市場に出しても負けない、ただ化粧が悪かった◎アストロペーリア 改良されたものが出てきたが、これから伸びる花。オランダ種で苗が高く普及難◎ポインセチア 赤い葉の広がり、大きさにおどろいた◎セントポーリア 今まで少なかったもので、良いのが出てきた。室内で長持ちし蛍光灯の下で花がひらき、スパティフィリアウムと共に有望株。

いま、鉢花が注目されている。これは、室内に（長持ちする）花を飾る機会が多くなったからで、鑑賞に価するものが要求される。また、自由な生活時間がふえて、花壇をいじる人がふえ、庭に移す苗物も有望。外国種苗で入手困難なものがあり、園芸総合試験場でも協力していきたい。

仲間審査員談 野菜の方は時間的に出品が少なかった。品質を良くしたい意欲が、目に見えて高まっているし、市場に出す生産物の準備面もすんでいる。良い物でも、均質のものを揃えるとか、見映えがしないとダメ。これから販売に大きな重点がおかれてくるが、この品評会は、他の生産者の物に目をむける機会が与えられていること、生産物を通して自分の仕事に評価が与えられることで、大きなプラスになっている。

この三日間を振りかえり石郷嘉正会長は「野菜類が季節はずれの点もあって、全体の出品数は前回より少く、一三八点だったが、品質、手入れいずれも良くなっている。即売ではみな売り切れたが、今回は町の一般庶民の人が近づいて買ってくれたし、電話や住所をたずねる人もあって消費者の反響を身近に感じた」と述べていた。

総合大賞カップを浅野 領事より受ける今西淳二氏。

## コルド通信

### 伏見義雄氏、長逝
### バサールで大成功の先駆者

伏見義雄氏香川県出身八十八歳が去る十月八日長逝した。

三ヶ月前、夫人同伴で日本ン大通りに新築したばかりの高層建物の広大な面積の一階と二階と地下を総括購入して、そこに「バサール フシ

九三二年コルドバ日会創立会員。それ以来理事、会計、幹事、会長等を歴任、会の発展に寄[illegible]た。殊に一九五六年会長に就任、長い間の懸案であった会館購入を実現したの

### 仲里道場の空手選主権
### 緊迫感で観衆魅了

仲里道場（主宰・仲里茂雄八段）の第六回空手道・古武い指導と練習で知られているが、この日もきびきびした試

### 《沖縄発われら地求人》
### アルゼンチン版、放映される

去る五月、海外移住の県系人の活躍ぶりを紹介する沖縄テレビの「沖縄発われら地求人」番組の取材班一行が来ア、一ヵ月余じっくり取材したが、十月中放映された。

これは在亜名護市民会が刊行したく旧名護町人アルゼンチン移住誌>の中の、一九一〇年代初期沖縄県人疏菜業の基盤を作った「名護出身者先駆者たちの農園風景の写真を参考にしたい」と、東江新得会長に許可を求める国際電話が沖縄テレビよりあり、三〇日に放映されます、と連絡があったもの。

先日、日系旅行社のS社長が来社した折、「俺もセクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）の被害者になって困ったことがある」という話になった。損害賠償の支払い迄に至らなかったのが何より。

S氏は旅行社経営の関係で日本からの客の応対も多く、特に女性に限られてはいないが、先月、日本女性が紹介されたのが事の起り、この女性が帰国する日、空港でのお別れのキスが問題となった。帰国した彼女の方からS氏宛に「キスという性的嫌がらせをされた」と書簡で訴えてきたのである。

別添15.



日農協

# 会員顔合わせアサードと日本研修生の報告会

日系農業者団体協議会の会員顔合わせアサード会と中堅日本研修生の報告会が九日（木）正午より、カステラルのINTA（農業技術試験場）内にあるJICAの園芸総合試験場で行われたが、古山文雄JICA主任、安井公一JICA派遣農業専門家、品評会の審査に当たった二農業技師、会員など約八〇名が参加、盛会だった。

初めに石郷嘉正会長、古山主任の新年の挨拶、安井先生の今後の方針について述べるところがあり、花卉、野菜、果樹各グループ参加者の紹介に入り、アサードの昼食に移った。

そのあと、ビデオを映しながら研修生の報告会が会議室で行われたが、黒田ヨシアキ氏は西尾園芸でシクラメン栽培について研修したが、水と市場（販売）が一番印象に残ったとして、次のように述べた。

「同園芸の所在地は六〇〇メートルの高地で、山の水を集めて使用している。試験的にアルゼンチンのレサーカ（河辺の堆積土）と水のデータを持っていったが、レサーカは条件的によい感じで、一方水質の悪いのには、向こうの方でびっくりしていた。問題は水だな、と思った。培養土として、カナダ産のトゥルバと堆肥（三年ねかせたもの）を混ぜたものを使用、出荷には底面冠水式の深い鉢を使っていた。また、腐れを防ぐため、温風機を使ってハウスの湿気を少なくする工夫をしていた。市場も視察したが、アルゼンチンのメルカードの販売方法は三〇年遅れているようだった」

小池エルネスト、松原ウーゴ氏らは、それぞれブラグ苗の研修を大阪の斉藤農場と兵庫県立中央農業技術センターで行ったが、次のように報告した。

「斉藤農場では、自家栽培と仕入れたものを育てて売る卸しをしていたが、バンデーハ、鉢その他、全て新品を使用しているのが目立った」

「技術センターでは、生産レベルアップのため発芽率を良くする工夫として、種子の選別、各種肥料の試用、電照時間、電照度合などのデータを揃えていた。常識的なことだが、良い種子選びが鉄則。実際の栽培については、土・日曜日、斉藤農場に行って実地見学。農協関係、個人経営の園芸場も見たが、同じことをやっている処は一つもなく、それぞれ独自のやり方を実行している。そこから選択してアルゼンチンで利用できるのではないか」

この三人に共通していることは、日農協の品評会で大賞を獲得したり、入賞したことのある二世の優良農家であること。研修のところだけでなく、個人的に各地にある幾つかの農園や市場に足を伸ばして視察する、積極的な姿勢が目についた。次回研修にすでに六名の希望者があり、二世を優先的に送りだすことになっている。各研修生の体験報告を聞きたいグループがあったら、日農協が仲介して実現させたい、とのこと。

☆……☆

汎米日語

# 教師合同研修会愈々十五日から始まる

▼二十四日（金）＝基礎コース1・2・3、応用コース1・2・3、タンゴ教室、送別会。

# 記録破るか、穀物の収穫高

## 先端テクノロジー導入し「パンパ」という巨人目覚める

九六～九七年の穀物の作柄はレコード破りの五三〇〇万トン＝八六億ドルに達するだろうと、農業工学専門家審議会（CPIA）は推計しているが、最近のE・クロット農牧協会会長や、F・ソラー農水相の予想とほぼ一致している。二〇〇〇年以後でないと達成できない記録と考えられていたものである。この増収は、全国で先端テクノロジーを導入しつづけてきた結果で、この記録更進はさらに続くものと見られている。

好調の主穀は小麦、トウモロコシ、黍などの穀類、ヒマワリ、大豆などの油糧種子でとくに二十五年から作付けのはじまった大豆は、毎年生産記録をねりかえている。今年

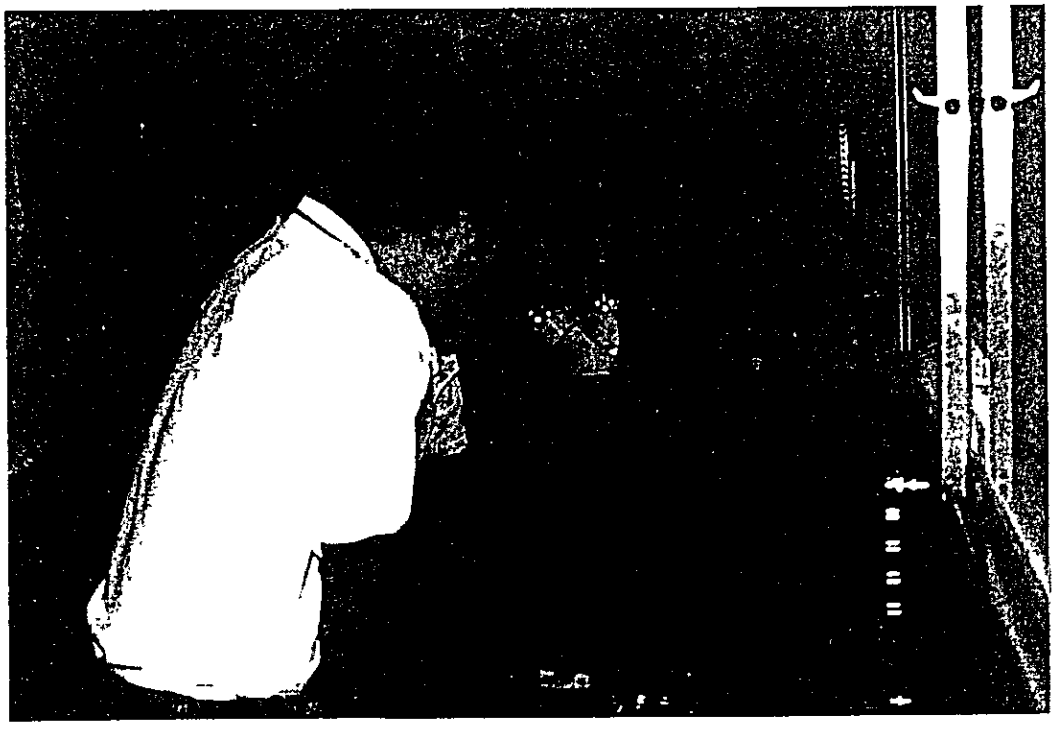
それから、生産者は長年〈天引き〉という輸出税にしばられていた。穀物の国際相場価格がもたらす金（かね）を直接手にすることはなく、国庫の慢性赤字を埋めあわせるために、時代と種類によって差があるが、二〇％から四〇％〈天引き〉されていた。さらに、トラクター、肥料、農薬の価格が割高であるところから、割安の農地に播種面積をふやして帳尻を合わせる、利潤の少ない農業になり果てていた。

コンペルティビリダー（兌換性）を導入しはじめてから〈天引き〉は廃止され、穀物の国際市場価格がそっくり手に入り、さらにトラクター、肥料、農薬が安くなり、

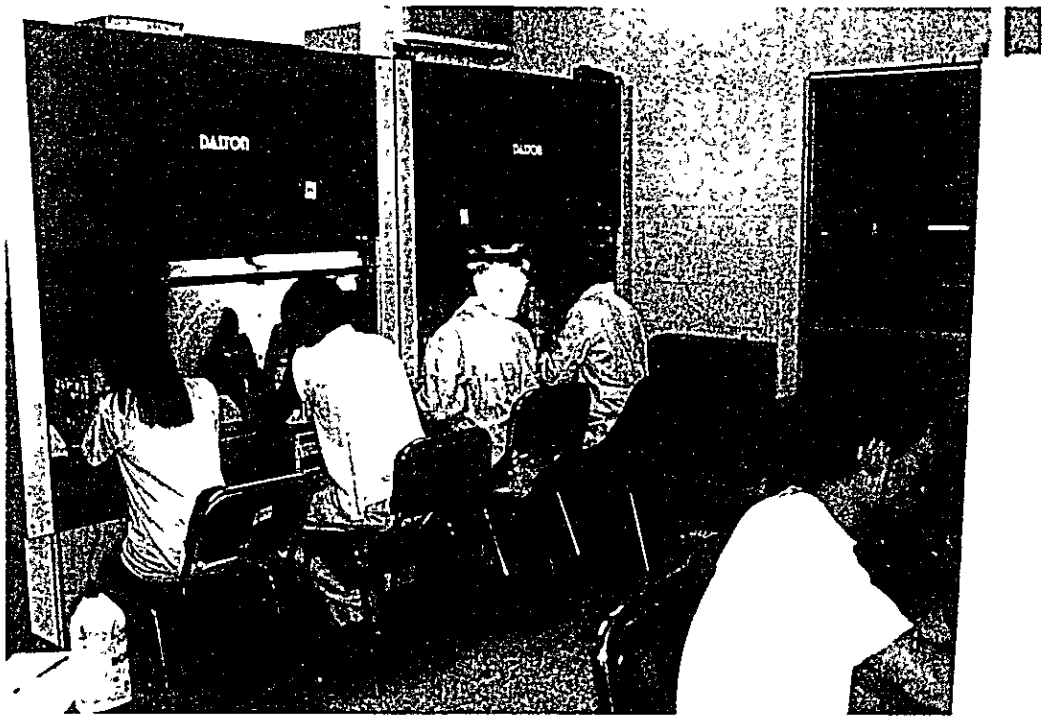
# 写　真

（研修風景）

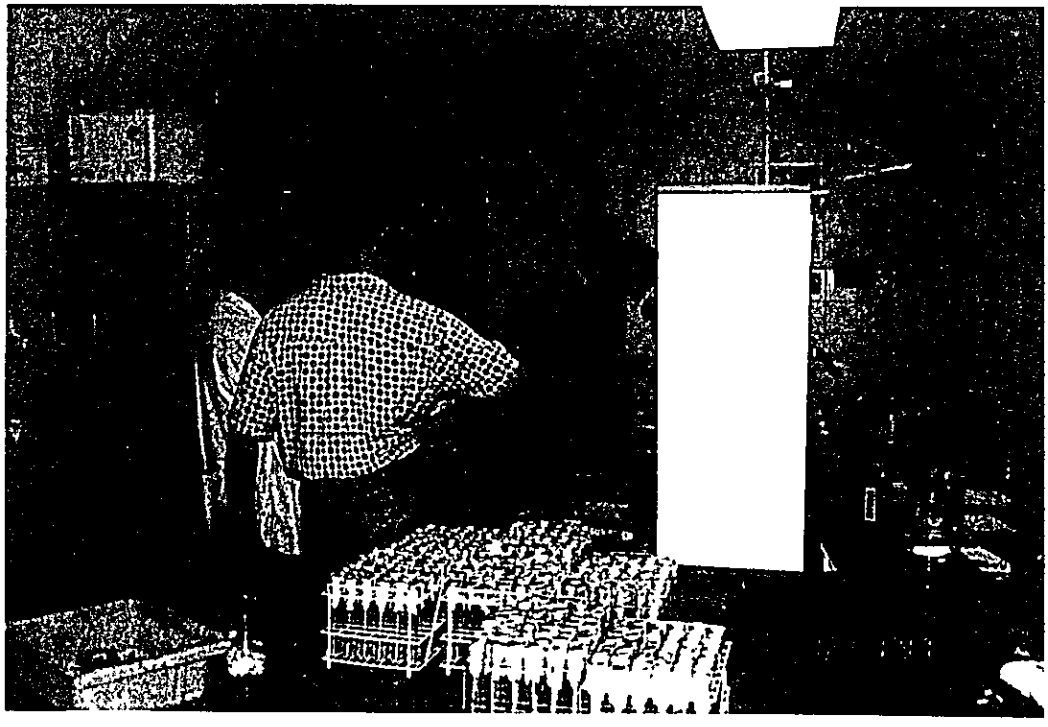
花卉組織培養実技研修(指導：安井専門家)



同　上



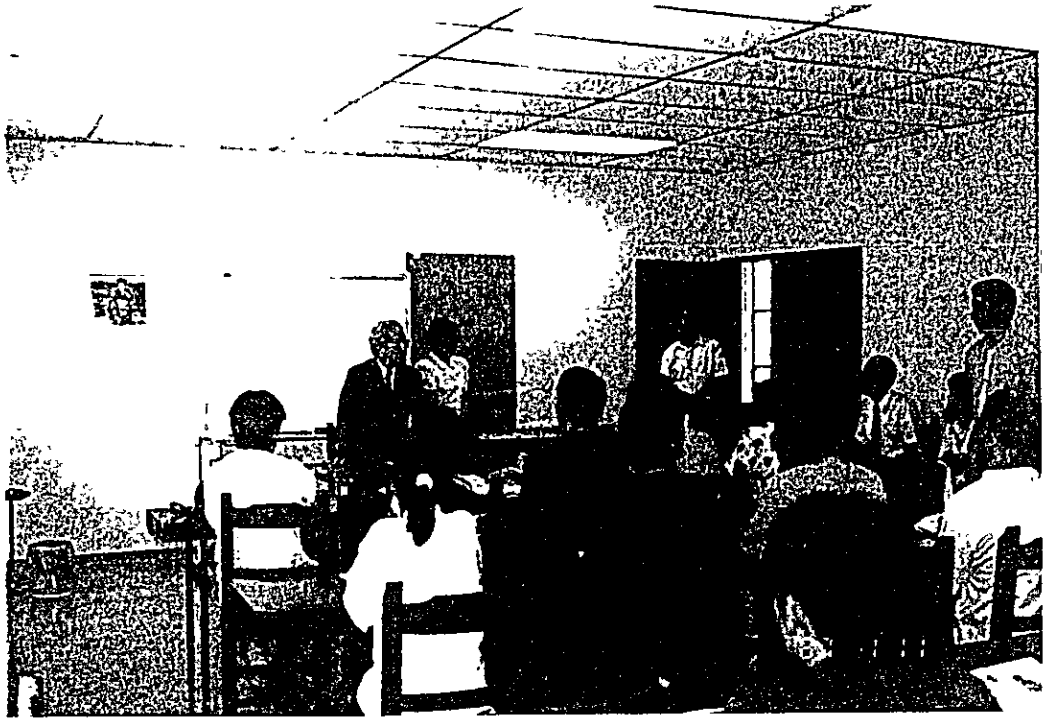

花卉組織培養実技研修



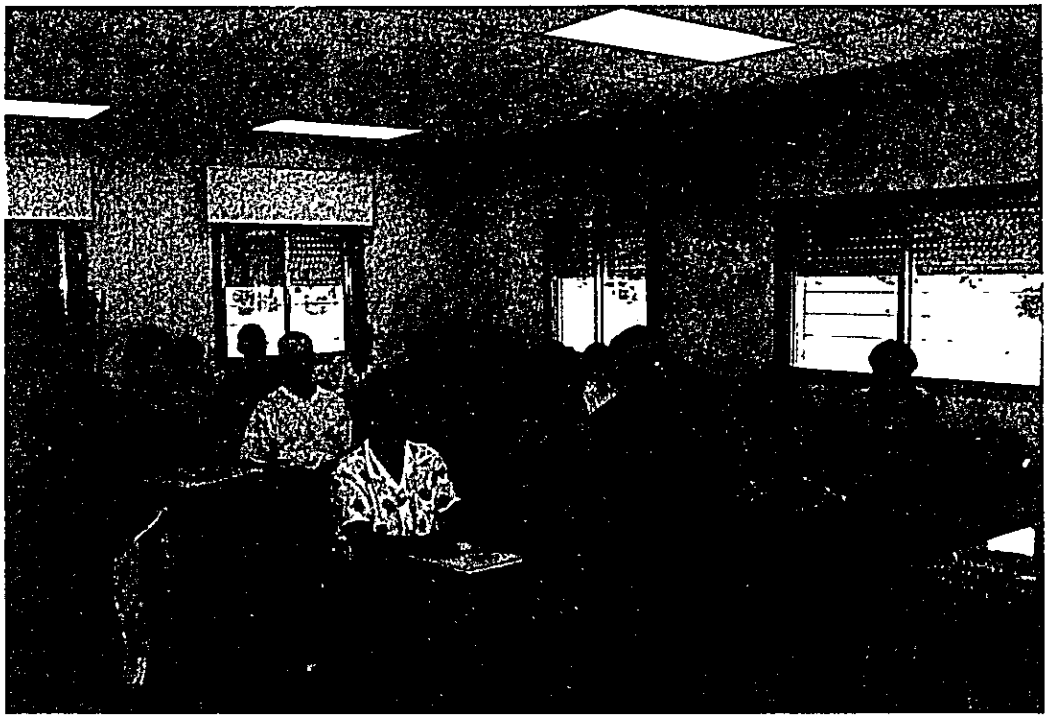
同　上

花卉組織培養実業家（元 園芸総試研修生）との懇談会

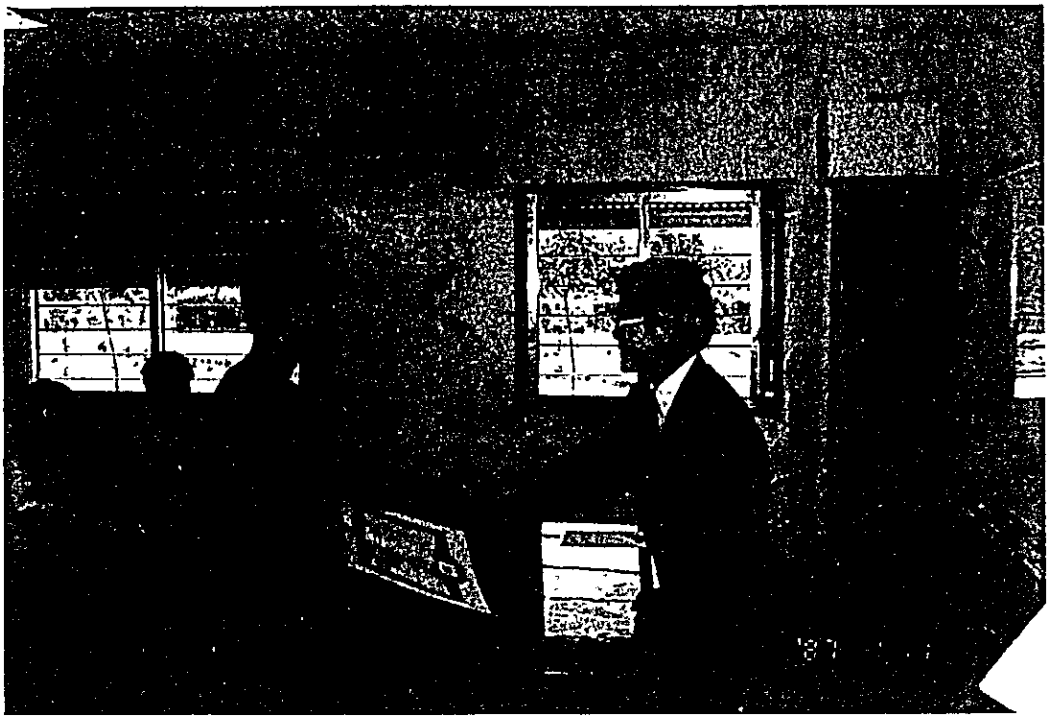
同　　上



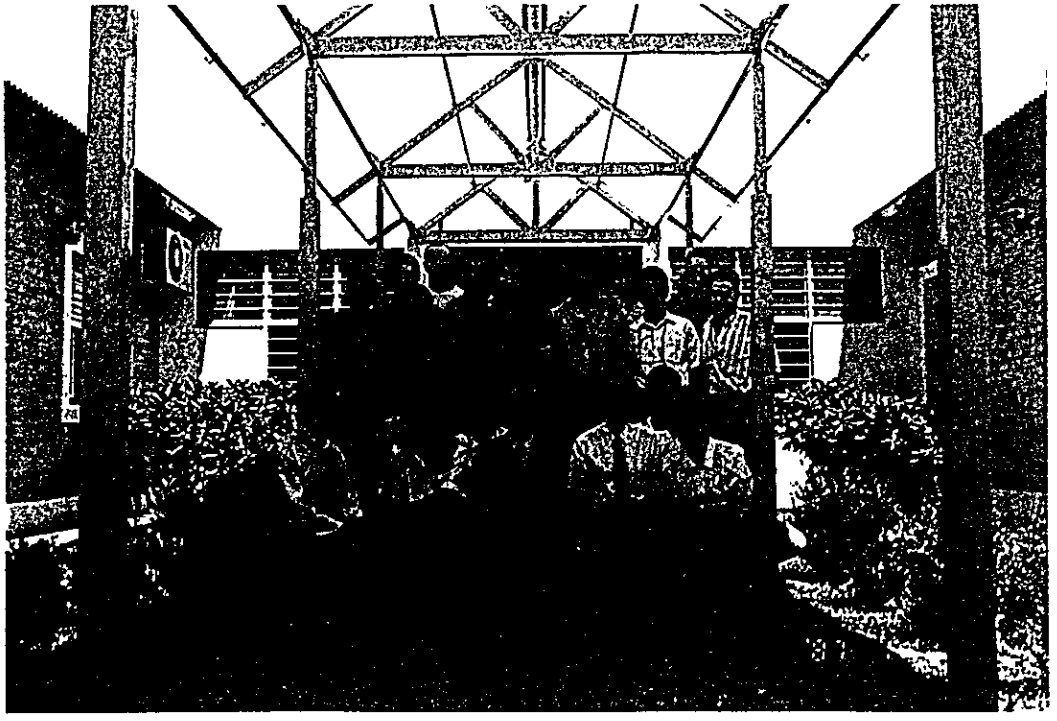
研修会開講式（場長挨拶）



研修生



研修会閉講式における研修修了証授与



研修生一同と当試験場職員・専門家一同